令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

（公務員デジタル人材育成モデル構築事業）

公務員デジタル人材育成モデル構築事業

〈公務員試験傾向分析科目 テキスト教材〉

本教材は、文部科学省の教育推進事業委託費による委託事業として、学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校が実施した令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」の成果物です。

学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校

令和７年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

（公務員デジタル人材育成モデル構築事業）

公務員デジタル人材育成モデル構築事業

〈事業成果報告書・教材ツール収納リンク〉

https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox/information#m_itaku

令和７年度　公務員デジタル人材育成モデル構築事業

公務員試験傾向分析科目　カリキュラムガイド

本ガイドは、令和７年度　文部科学省　地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業　公務員デジタル人材育成モデル構築事業（委託先：学校法人浦山学園　富山情報ビジネス専門学校）において委員会で討議、検討された内容を基に開発された。

本事業は、地域デジタル社会に適応した人材を育むことができる学科へ高度化を図ることを前提とした人材育成モデルの構築を目指すものであり、公務員試験傾向分析科目（以下、「本科目」という）においても生成 AI 等のデジタルツールの利活用をふまえて設計している。

本ガイドは、本科目の指導におけるガイドラインとして作成しているが、運用にあたっては教育機関の授業時間設定や授業コマ割り等も考慮して使用することを前提とする。

本ガイドの構成は以下の通りである。

１．　科目の位置づけ
２．　科目のコンセプト
３．　本科目が育成する能力と意図
４．　カリキュラム全体像
　　シラバスと評価規準、成果測定
　　付属資料
５．　生成 AI を組み込む教育的意図と運用ルール

目　次

1．科目の位置づけ …… 5

2．科目コンセプト …… 5

（1）本科目：全体コンセプト …… 5

（2）本科目を実現する「科目内・各単元コンセプト」 …… 6

①自治体分析（募集要領・人材像・施策理解）各単元コンセプト …… 6

②読解力（文構造把握・根拠で読む）単元コンセプト …… 6

③対策範囲の「見取り」（分野学習の優先順位化）単元コンセプト …… 6

④作文・面接試験の基礎接続（評価軸の理解と材料化）単元コンセプト …… 7

⑤生成AI・デジタル活用（思考支援の補助領域）単元コンセプト …… 7

3．本科目が育成する能力と意図 …… 7

4．カリキュラム全体像 …… 7

（1）設計時間：90分/コマ×15コマ …… 7

（2）カリキュラムの流れ …… 8

（3）カリキュラム全体 …… 8

（4）授業評価方法ツール …… 11

（5）学習成果物 …… 11

（6）評価規準 …… 11

①評価の基本方針 …… 11

②評価規準 …… 11

③ルーブリック …… 12

④評価方法 …… 14

（７）コマシラバス …… １５

①授業１：読解力の重要性、助詞 …… １５

②授業２：文の構造把握、指示語の理解と省略の補完、言い換えの理解 …… ２１

③授業３：推論・図表と文章の照合・具体例特定による文章理解 …… ２７

④授業４：読解力確認テストと解説 …… ３３

⑤授業５：作文作成 …… ４２

⑥授業６：誤字・脱字、送り仮名、表記ゆれ …… ４４

⑦授業７：文体の統一、接続詞の適切な使用、簡潔な文章表現 …… ４９

⑧授業８：主語と述語、修飾語、矛盾した内容 …… ５４

⑨授業９：AIリテラシーと公務員試験AI対策-１ …… ５９

⑩授業10：AIリテラシーと公務員試験AI対策-２ …… ７１

⑪授業11：AIリテラシーと公務員試験AI対策-３ …… ７３

⑫授業12：AIリテラシーと公務員試験AI対策-４ …… ８０

⑬授業13：AIリテラシーと公務員試験AI対策-５ …… ９０

⑭授業14：AIリテラシーと公務員試験AI対策-６ …… １０３

⑨授業15：AIリテラシーと公務員試験AI対策-７ …… １０９

５．生成AI活用に関する方針・ルール・意図 …… １１５

（１）傾向分析科目における生成AI活用の基本方針 …… １１５

（２）傾向分析科目におけるAI活用ルール …… １１５

（３）傾向分析科目におけるルールの意図 …… １１５

６．委員名簿 …… １１６

実施委員 …… １１６

事業推進委員 …… １１７

１．科目の位置づけ

本科目は、公務員を目指す専門学校に在籍する進級年次生（公務員試験対策の初期段階にある学生）を対象とし、公務員試験に向けた学習の基礎育成を担う科目として位置づける。

本科目は、教養試験、作文試験、面接試験といった公務員試験の各分野に共通して求められる力を、「出題傾向」や「評価の観点」という視点から整理し、受験対象年次の試験対策を進めるための土台を形成することを目的とする。

本科目では、生成 AI を使用して自治体情報を効率的に整理し、「どのような人材が求められているのか」「どのような姿勢や考え方が評価されやすいのか」を把握し、学生が自治体や公安等の公務員分野を選択しやすくする。つまり、自治体分析においては、すべての資料を詳細に読み込むことを目的とするのではなく、限られた時間の中で必要な情報を取捨選択し、優先順位をつけて理解し、早期に受験する分野を定めることで目標を明確化させ学習意欲を高める。さらに、募集要項や自治体の施策資料を題材に、どの情報を重点的に読むべきか、どの部分が作文や面接試験に直結するかといった観点を示し、「効率よく理解するための読み方」を身につけさせる。

また、本科目では、読解力や作文力、面接試験における受け答えの基礎となる思考力、表現力の育成を重視する。文章を正確に読み取る力、設問の意図を把握する力、自分の考えを筋道立てて表現する力は、試験対策の観点だけでなく、公務員として業務に携わるうえでも不可欠な能力である。本科目は、これらの力を早期に可視化し、学生自身が学習課題を自覚するための役割も担っている。

以上のことから、本科目で形成された理解力や判断力、学習の進め方が、直前対策科目における実践的な演習やアウトプット中心の学習を支える前提となる。その意味で、本科目は単独で完結する科目ではなく、公務員試験対策を段階的に進めるための起点として位置づけられる。

なお、評価規準およびコマシラバスについては、基準として定めるものである。ただし、学校の指導方針および授業の進捗状況等をふまえ、必要に応じて変更することも可能とする。

２．科目コンセプト

（１）本科目：全体コンセプト

本科目の全体コンセプトは、高卒程度公務員試験に向けた出発点として、単なる知識・解法の獲得に先立ち、「自治体や行政機関が何を重視し、どのような観点で受験者を評価するのか」を募集要項や自治体資料を通じて正確に理解できる力を育成することにある。これにより学生は、試験対策の基礎を作り直前対策科目において限られた時間で最大の学習効果を発揮できるようになる。

同時に、本科目が狙うのは「合格のための基礎作り」だけではない。行政職・公安職を含む公務員試験に共通して求められる、情報を正確に読み取り、条件を整理し、根拠に基づいて判断・説明する力を形成する。さらに、生成 AI やデジタルツールを、判断を代替するものではなく思考を支援する補助手段として扱うことで、合格後の実務にもつながるデジタル利活用の素地も育成する。

（２）本科目を実現する「科目内・各単元コンセプト」

①自治体分析（募集要項・人材像・施策理解）単元コンセプト

コンセプト：試験対策の起点を「過去問」ではなく「募集要項・人材像・施策理解」に置き、評価の前提を正確につかむ。

本科目の自治体分析は、試験問題を研究する活動ではなく、募集要項や自治体資料から、求める人材像・重視する価値・重点施策を効率的に把握し、理解を深める学習である。学生がやるべきは「全部読む」ではなく、「評価に直結する要点を抽出し、整理し、説明できる状態にする」ことである。これにより、作文や面接試験で適切な回答につなげることができるとともに、教養試験の学習も目的意識をもって進められる。

直前対策への接続意義：直前期の作文・面接試験対策において、「何を軸に話す/書くか」の土台がすでに整っているため、短期間でも合格水準へ引き上げやすくなる。

②読解力（文構造把握・根拠で読む）単元コンセプト

コンセプト：「国語力」ではなく「誤読しない技術」としての読解力を育て、根拠で読む習慣をつくる。

本単元の読解力は、語彙暗記ではなく、助詞・係り受け・指示語・省略・文構造把握を通じて、文章の意味を根拠に基づき確定させる力を養う。特に、文の中心と補足、条件、因果、具体例の位置づけを押さえ、推論と事実を区別する読み方を徹底する。図表がある場合は、図表と文章を照合し、本文に戻って判断する行動を習慣化する。これにより、教養試験のみならず、募集要項や施策資料の読解、作文課題の条件整理、面接試験質問の意図理解にも一貫して通用する基礎ができる。

直前対策への接続意義：試験時間内に解答する際に、焦りや思い込み等による設問条件の読み落としや誤読による失点を防ぐ。

③対策範囲の「見取り」（分野学習の優先順位化）単元コンセプト

コンセプト：目指す公務員分野の傾向をとらえることで“広く浅く”ではなく、“合格に必要な優先順位”を意識して学習計画の設計をできるようにする。

本段階では、出題範囲の全体像、頻出領域、得点源を把握し、学習計画に落とし込む。学生が「苦手だから避ける」「好きな分野だけやる」といった学習の偏りを防ぎ、直前対策での成果直結になるように学習範囲のイメージを持つ。
直前対策への接続意義：直前期に演習を積む際に、学習の優先順位が理解できている。

④作文・面接試験の基礎接続（評価軸の理解と材料化）単元コンセプト
コンセプト：作文・面接試験を「表現練習」ではなく「評価軸に沿った材料整理」として準備する。
本段階では、完成レベルの答案や模範回答の暗記ではなく、自治体分析でつかんだ人材像・施策方針を軸に、どの経験、価値観、志望理由が評価されやすいかを整理する。作文は「条件整理→論点設定→根拠配置」の型を理解し、面接試験は「質問意図→回答の骨格→矛盾チェック」の型を理解する。
直前対策への接続意義：直前期の演習が「ゼロから作る」ではなく「整えた骨格を磨く」工程になり、短期間で合格水準に到達しやすい。

⑤生成 AI・デジタル活用（思考支援の補助領域）単元コンセプト
コンセプト：生成 AI は「解答生成」ではなく、「考えるための下準備」を支える補助ツールとして使い分ける力を育てる。
本科目での生成 AI 活用は、資料の整理、要点抽出、比較、文章構造の確認、表現の磨き込みなどに限定し、解答を作らせる使い方は行わない。学生は、AI の情報をうのみにせずに、根拠確認、修正を前提として活用するツールであることを理解することで、今後、公務員として必要となるデジタル利活用の基礎力形成につなげる。

３．本科目が育成する能力と意図
本科目は、公務員試験対策の出発点として、試験で評価される力を把握したうえで、以下の能力を重点的に育成することを目指す。
・募集要項や自治体資料を正確に読み取り、求められる人材像や評価の観点を把握する力
・助詞・係り受け・文構造に基づき、文章を誤解なく読み解く読解力
・相手に考えや意図が伝わる、減点されない作文力
・生成 AI やデジタルツールを補助機能として活用する基礎的知識

４．カリキュラム全体像
（１）設計時間：90 分/コマ×15 コマ

本カリキュラムは、45 分または 50 分単位の授業から、2 授業連続による 90 分授業、あるいは 100 分授業への移行を想定し、45 分を 1 単位とする 2 コマ構成を基本としている。そのため、90 分授業の場合は 2 コマを連続して実施することで完結し、100 分授業の場合には、導入時の意識付けや振り返り、課題作成等で時間の調整ができるように授業実施の柔軟性を考慮して設計している。

（2）カリキュラムの流れ

本カリキュラムは、15 コマを通じ、以下のような科目で構成されている。

【読解力育成】　助詞/係り受け/推論/図表と文章の照合

【作文力】　文章作成のルール/主語と述語/表現/文体/接続詞

【生成 AI の基本】　基礎知識/プロンプト/画像生成 AI/著作権

【自己分析】　自己分析/認識と理解/生成 AI による他者視点分析

【自治体等傾向分析】　採用情報へのアクセス/試験内容と過去問題/AI 利用

（3）カリキュラム全体

授業回	項　目	細　目	授業時間	使用教材の有無	評価対象
1	読解力育成	読解力の重要性	45 分	有	-
		読解力と助詞			
		読解力理解のための概念・用語			
		「文章理解問題演習 1 」の実施 ※学校アレンジ可能、学校教材等活用	45 分	-	
2	読解力育成	文の構造把握	45 分	有	-
		指示語の理解と省略の補完			
		言い換えの理解			
		「文章理解問題演習 2 」の実施 ※学校アレンジ可能、学校教材等活用	45 分	-	
3	読解力育成	推論	45 分	有	-
		図表と文章の照合			
		具体例の特定			
		「文章理解問題演習 3 」の実施 ※学校アレンジ可能、学校教材等活用	45 分	-	
4	読解力育成	「読解力確認テスト」の実施	45 分	有	読解力確認テスト結果
		「読解力確認テスト」の解説	45 分		
5	作文力育成	「作文演習」の実施（過去問題等活用）	90 分	-	-

6	作文力育成	誤字をなくす	45 分	有	-
		正しい送り仮名、仮名づかい、カタカナ語で書く			
		表現をそろえる			
		「ら抜き言葉」に注意			
		「作文添削」の実施（「作文演習」等活用）	45 分	-	
7	作文力育成	文体をそろえる	45 分	有	-
		接続詞を正しく使う			
		文を短く書く			
		「作文添削」の実施（「作文演習」等活用）	45 分	-	
8	作文力育成	主語と述語を対応させる	45 分	有	作文試験結果
		修飾語の位置に注意			
		矛盾した内容にならないように注意する			
		「作文添削」の実施（「作文演習」等活用）		-	
		「作文試験」の実施（過去問題等活用）	45 分	-	
9	生成 AI の基礎知識	生成 AI の概念	45 分	有	-
		「AI」と「生成 AI」			
		生成 AI			
	生成 AI を構成する要素	機械学習		有	
		教師あり学習			
		教師なし学習			
		強化学習			
		機械学習のまとめ			
	進化する機械学習	ニューラルネットワーク	45 分	有	
		ニューラルネットワークの強み			
		ディープラーニング			
		ディープラーニングの問題点			
		ディープラーニングのまとめ			
10	代表的な生成 AI	代表的な生成 AI 比較	45 分	有	-
		ChatGPT へのアクセス方法（登録）			
		ChatGPT の特徴			
		ChatGPT を使ってみよう		-	
		Gemini へのアクセス方法（登録）	45 分	有	
		Gemini の特徴			
		Gemini を使ってみよう		-	
		Copilot へのアクセス方法（登録）		有	

		Copilot の特徴			
		Copilot を使ってみよう		-	
11	プロンプト	プロンプト	45 分	有	-
		プロンプトの基本			
		プロンプトの構成要素			
		プロンプト作成のコツ			
		プロンプト比較			
		プロンプトのまとめ			
		「プロンプト問題集」の実施	45 分	有	
12	プロンプトテンプレート	よく使うプロンプト（例）	45 分	有	プロンプトテスト結果
		「プロンプト演習」の実施（よく使うプロンプト例を活用）		-	
	プロンプトテスト	「プロンプト問題集」を活用した「プロンプトテスト」の実施		有	
	ハルシネーション	ハルシネーション	45 分	有	
		ハルシネーション抑制プロンプト			
		ハルシネーション発生の事例			
		ハルシネーションのまとめ			
13	画像生成 AI	画像生成 AI の基本	45 分	有	-
		代表的な画像生成 AI			
		画像生成 AI のまとめ			
	著作権	著作権		有	
		生成画像の商用利用			
		著作権の落とし穴			
		商用利用での著作権侵害事例			
		行政機関でのトラブル事例			
	MY 生成 AI	MY 生成 AI	45 分	有	
		ChatGPT（有料版）			
		ChatGPT（無料版）			
		Gemini（有料版・無料版）			
		MY 生成 AI のまとめ			
14	自己分析	自己分析	45 分	有	-
		自己認識			
		自己分析のまとめ			
		「自己分析・自己認識」の実践 （他者視点・生成 AI 活用）	45 分	-	

15	自治体等傾向分析	自治体等の採用情報	45 分	有	用語等確認テスト結果
		試験内容と過去問題			
		生成 AI を活用した情報収集			
		「自治体等傾向分析」の実践 （自己 PR や志望動機の素材集めを含む）	45 分	-	
	傾向分析科目まとめ	「用語等確認テスト」の実施		有	

（４）授業評価方法ツール

授業評価としてテストを実施することも想定し、次の評価ツールを用意している。

・読解力確認テスト

読解力テストを実施し、テスト結果をもって評価を行う。

・作文

作文力学習前と比較した向上度をもって評価を行う。

・プロンプトテスト

プロンプト問題集から問題を出題し、テスト結果をもって評価を行う。

・用語等確認テスト

用語等確認テストを実施し、テスト結果をもって評価を行う。

（５）学習成果物

①読解力確認テスト結果

②作文等の成果物

③プロンプトテスト結果

④用語等確認テスト結果

（６）評価規準

①評価の基本方針

本評価規準は、知識量や操作スキルの多寡ではなく、正しく読み、考え、整理し、AI を補助的に使いながら判断する力の育成を評価する。

②評価規準

観点	育成したい資質	能力	説明
①読解力	正確性・慎重さ	文章を構造的に読み取る力	試験問題、作文課題、募集要項、自治体資料を、主語・述語、指示語、省略、文構造に着目して正確に理解できているか。

②論理的思考力	論理性・一貫性	情報を整理し関係づける力	募集要項や設問文の条件・評価観点を整理し、理由と結論、具体例と主張の関係を崩さずに理解・説明できているか。
③作文構成力	計画性・構成意識	書く前に組み立てる力	作文において、設問意図や評価観点を踏まえ、構成（序論・本論・結論）を事前に考えられているか。
④表現の正確性	客観性・丁寧さ	正確に伝える力	文体の統一、接続詞の適切な使用、主語と述語の対応、修飾関係の明確さなど、誤解を生まない表現ができているか。
⑤自己点検・改善力	自律性・改善意識	自分の誤りに気づく力	自身の読み違い、構成の不備、矛盾や表現上の問題点に気づき、適切に修正できているか。
⑥生成 AI 活用力	判断力・情報リテラシー	生成 AI を補助として使う力	生成 AI を用いて募集要項や文章の要点整理・構造確認を行い、その結果をうのみにせず自分の判断で活用できているか。
⑦自治体理解力	公共性・当事者意識	求める人材像を読み取る力	募集要項等から AI を補助的に用いて、「自治体が何を重視しているか」「どのような人材を求めているか」を把握できているか。
⑧学習姿勢	主体性・継続力	学び方を理解し実行する力	本科目で身につけた考え方、AI 活用の基礎を直前対策科目や今後の学習につなげようとしているか。

③ルーブリック

到達レベル			
4	3	2	1
①読解力			
文の構造を意識し、募集要項や設問文を	大きな読み違いはなく、指示があれば構造を確認できる。	内容理解はできるが、感覚的に読んでいる。	思い込みや部分理解により誤読が多い。

根拠をもって正確に読み取れている。			
②論理的思考力			
条件、評価観点を整理し、一貫した説明ができる。	おおむね整理できているが、一部で論点が曖昧になる。	情報は拾えるが、関係づけが弱い。	情報整理ができず、説明が断片的になっている。
③作文構成力			
設問や募集要項の趣旨を踏まえ、構成を考えて書ける。	構成意識はあるが途中で崩れる。	思いついた順に書いている。	設問と文章構成が対応していない。
④表現の正確性			
文体、構造が正確で読みやすい。	一部文の構造が不安定だが、意味は通じる。	文体の混在や表現の粗さが目立つ。	意味が正確に伝わらない。
⑤自己点検・改善力			
問題点を自力で発見し、修正方針を説明できる。	指摘されれば理解し修正できる。	指摘されても理解が不十分。	指摘されても何が誤りか、気づけない。
⑥生成 AI 活用力			
分析結果を参考情報として整理し、判断に活用できる。	AI を使って要点整理はできるが、判断は教員に依存する。	AI の出力をそのまま使おうとする。	AI の使い方・位置づけを理解していない。
⑦自治体理解力			
募集要項等の分析に AI を補助的に使い、必要情報を抽出し、求める人材像を説明できる。	求める人材像をおおむね説明できる。	表面的な理解にとどまる。	募集要項の趣旨を理解できていない。
⑧学習姿勢			
本科目で得た考え方や AI の活用を次の段階でどのように利用するのか、想定している。	指示に沿って取り組んでいる。	受動的な参加にとどまる。	学習意義を理解できていない。

④評価方法

・出欠

・授業時の参加度（教員による観察）

・成果物の内容

・テスト結果

（7）コマシラバス

①授業１：読解力の重要性、助詞

<table>
<tr><th colspan="3">授業の位置づけ</th></tr>
<tr><td colspan="3">本授業は、本科目における読解力育成の導入回となる。読解力＝国語の学習というイメージを持ってしまいがちである。しかし、本授業での読解力は、国語学習というよりは、公務員試験において求められる「正確に読む力」や「文の構造を把握する力」を育成し、公務員として必要な文章読解を育成するための授業である。その観点から、次の３つの項目について学習する。
１．公務員試験における読解力の重要性
２．助詞に着目し、「誰が、何を、どうしたか」の把握
３．読解力理解のための概念・用語</td></tr>
<tr><th colspan="3">到達目標</th></tr>
<tr><td colspan="3">１．公務員試験において読解力の重要性を理解する
２．助詞により意味が変わることを理解する
３．読解力理解のために必要な概念のイメージをつかめる</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業構成</th></tr>
<tr><td colspan="3">教材を基に「読解力の事例」→「読解力理解」→「課題」</td></tr>
<tr><th colspan="3">使用教材</th></tr>
<tr><td colspan="3">読解力育成教材</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業進行</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>□授業の目的の説明
本授業が試験対策だけではなく、デジタル活用においても基礎となる日本語力を育成するものであり、公務員としても文書処理能力が重要であることを伝える。
□P1　01 読解力の重要性
導入部分の発話からの流れで、身近な短文形式の例を示し（LINE 等）、な</td><td>□教員発話例
公務員の仕事は、書類を作る仕事ではなく、書類を読み、判断する仕事です。法令、マニュアル、住民からの申請書、上司や他部署からの指示文など、公務員は毎日、大量の文章に触れます。その中から、「今、何が求められているのか」「どこまでやればよいのか」</td></tr>
</table>

	ぜ短文でも意思疎通が可能なのかを考えさせたうえで、短文と長文との文意の読み取りの難しさを伝える。	を正確に読み取る力が求められます。読解力は、試験のためだけでなく、公務員として働くための基礎力です。
展開	□ P3　02 読解力と助詞 教材にある例題文 A と文 B の文章のイメージを聞き、その違いを板書等で抽出する。 □ P4　助詞の穴埋め問題 ５分程度を目途として実際にテキストの穴埋め問題を書き込ませ、答え合わせを行う。 □ P5～　読解力理解のための概念・用語 読解力を理解するうえで必要になってくる文の構造を理解してもらうため、まずは各用語を一通り説明する。 そのうえで、テキスト内の例題を示しながら語句が部品の役割を担い、部品同士の関係性で文章が組み立てられていることを理解させる。 □文章理解問題演習 1 の実施 問題演習を実施し、解説する。	□教師発話例 公務員の仕事では、「〇〇に提出」「〇〇へ送付」「〇〇を実施」の「に、へ、を」などの違いを読み誤るとミスを招くことになります。また、試験時に助詞を理解せずに解答を行うと読み違えによる失点になります。 そのため、助詞といわれる「て、に、を、は」などの理解をしっかり押さえましょう。
まとめ	□読解力の重要性を確認する。 □助詞の役割をおさらいする。 □次回、読解力に関する概念を詳しく確認することを伝える。	

評価観点

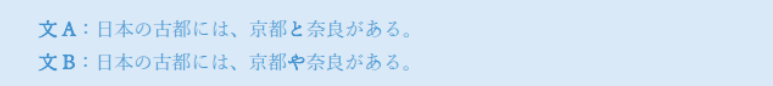
1．読解力と公務員試験、読解力と公務員業務との接続を理解しているか
2．教員の指示に従って教材のワークを行ったか
3．問題演習に取り組んだか

評価基準（授業単位での評価の参考）
1．授業の取り組み姿勢（質疑の発話、課題の取り組み） 2．文章理解問題演習の正答数３問/７問

□指導のポイントと対応

・P3　02 読解力と助詞

テキストにある例題を取り上げて文 A と文 B の文章のイメージを聞き、その違いを板書等で抽出する。



・P4　助詞の穴埋め問題

５分程度を目途として実際にテキストの穴埋め問題を書き込ませる。

学生に解答させ、空欄を埋めた後に教員が全文を読み、違和感がないかをクラス内で確認しながら答え合わせを行う。

また、授業進行例として５分間時間を設けて「て、に、を、は」を使って前日あった出来事を短文で記載するように指示し、作成された短文の「て、に、を、は」を変えた文を作成させ２文の違いを説明させる。

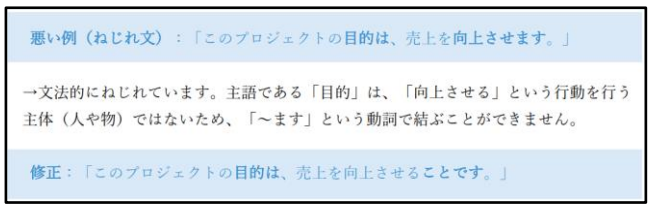
教員用例文：職員は、住民に説明を行った。→職員に住民は説明を行った。

文では、行為者が「職員」と「住民」に変わっている。行政文書においては、行為者が重要になる、そのため助詞によって行為者が変わる危険性を理解してもらう。

・P5～読解力理解のための概念・用語

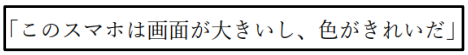
係り受けでの説明

テキストの例題にある「悪い例」「修正」を使って文のねじれを解説する。



「悪い例」から文のねじれとして主語の「目的」に対して向上「させる」という行動となっている点に注目させる。そのうえで、文の構造として「目的は」の後ろは、「～ことです」となることを説明する。区切ってつなぐ書き方は、使いすぎると、読みにくくなることを理解させることがポイントとなる。目安として、一つの文の中で３ 回以上つなぎが続いたら文を分けた方が分かりやすくなることを伝える。

・「～し、」の形
テキスト記載の例文「このスマホは画面が大きいし、色がきれいだ。」を基に解説する。



説明の例示としては、次の通り。
この文は、「画面が大きい」「色がきれい」という二つの情報を、区切りながら一文で伝えている文です。このように、途中で一度区切ってから、次の内容につなぐ書き方を使うと、テンポよく説明できます。なぜ便利なのかこの書き方を使うと、特徴をまとめて言え、読むリズムがよくなる。また、箇条書きのように情報を出せる、という良さがあります。でも、使いすぎると情報が連続して続いて、原因はどこにあるのか、結果はどこにあるのか、が見えなくなる。
・P6 ～「指示語の理解と省略の補完」「同義文」「定義文」「図表と文章の照合」「具体例の特定」までを学生に確認させる。

・「文章理解問題演習 1 」の実施
問題解答時間は 20 分～30 分（学生理解度に応じて）を目安に設定。
解答、解説を実施。
なお、各学校で既存教材やテスト、プリント類などの学校独自教材類がある場合は、それを使用することも可能。

□使用教材（読解力育成教材）

01

読解力の重要性

なぜ今、「読解力」が問われるのか

「LINEならスタンプで通じるのに、レポートだと通じないのはなぜ？」
普段の会話やチャットでは、主語が抜けていても「あうんの呼吸」で伝わります。しかし、大学の課題や仕事のメールではそうはいきません。ここでは、なぜ今あえて「読解力」を鍛える必要があるのかについて考えます。

1. 読解力とは

本教材で目指すのは、単に難解な書物を読む力ではありません。書かれたテキストを客観的かつ論理的に読み解く基礎的な能力です。正しい読解力が身につくと、以下のような変化が起こります。

問い合わせ対応の迅速化：相手のメールの意図を正確に把握し、的確な返信ができるようになるため、やり取りの回数が減ります。

資料作成の効率化：誤解を招かない文章（ねじれのない文など）が書けるようになり、レポートや論文の修正が減ります。

学習効率の向上：新しい知識（教科書や専門書）を独力で正確に理解できるようになります。

2. 「なんとなく読む」からの脱却

私たちは日常生活において、LINEやチャットツールなどを使った短いやりとりに慣れ親しんでいます。そこでは、文法的に完璧な文章でなくても、文脈や阿吽の呼吸で意味が通じることが多いため、それほど「助詞」や「文構造」を意識していません。

しかし、この「なんとなく読む・書く」習慣が、ビジネスや学術的な場面では大きな落とし穴となります。説明文や報告書、契約書などを読む際、書き手の意図を正確に読み取るためには、感覚ではなく論理に基づいた「読解力」が必要不可欠です。

3. 誤読が招くコストとリスク

学校の課題やアルバイトの現場で、先生や先輩に報告をした際、「なんだかよくわからない」と言われたり、マニュアルを読んだはずなのに手順を間違えたり、といった経験はありませんか？これらは多くの場合、読み手の「能力不足」というよりは、「自己流の読み方」が原因です。キーワードだけを拾い読みし、自分の知識や思い込みで勝手なストーリーを作って解釈してしまう――これが「誤読」の正体です。誤読は、仕事の手戻り（やり直し）を発生させ、組織全体の生産性を著しく低下させます。逆に言えば、正確な読解力を身につけることは、個人の作業効率を劇的に向上させ、チーム全体のパフォーマンスを底上げすることにつながります。

3. 「読める」という思い込み

多くの人は、「自分は日本語のネイティブスピーカーであり、義務教育を受けてきたのだから、日本語は読める」と考えています。企業側も「大人なんだから、少し注意すればちゃんと読める（書ける）だろう」と甘く見ています。しかし、「多くの大人が、教科書レベルの文章であっても、正確には読めていない」という事実です。例えば、「AはBである」という単純な定義文や、「AならばBである」という論理構造を、家庭気で読み流してしまっているケースが非常に多いのです。この「読めているつもり」の状態こそが、スキル向上の最大の障壁となります。

5. 生産性向上のために

実際にある組織では、新聞の見出しとリード文を使って、論理的な文章を再構築するトレーニングを実施しました。参加者は当初、文章をひねり出すのに１時間近くかかっていましたが、トレーニングを続けるうちに短時間で正確な文章が書けるようになりました。結果として、チームの生産性が向上したと報告されています。読解力は、才能ではなく「技術」です。正しいトレーニングを積めば、誰でも確実に向上させることができます。次章からは、その具体的なメカニズムとトレーニング方法を学んでいきましょう。

02

読解力と助詞

読解力を左右するのは「語彙」か「助詞」か

「君『が』好き」と「君『も』好き」。たった一文字で意味は大違い。
「て・に・を・は」などの助詞は、日本語の背骨です。単語の意味を知っていても、助詞を読み間違えれば事実は180度変わってしまいます。ここでは、キーワード拾い読みを卒業し、助詞に注目して文を正しく読むトレーニングを行います。

1. 「と」と「や」の違いが意味を変える

助詞とは、言葉と言葉をつなぎ、その関係性や役割（主語、目的語など）を決定づける「て・に・を・は」などの言葉のことです。
助詞一つで意味がどう変わるか、具体的な例を見てみましょう。

文A：日本の古都には、京都と奈良がある。
文B：日本の古都には、京都や奈良がある。

この２つの文は、同じ意味でしょうか？ 答えは「異なる」です。「と」は並列を表し、列挙したもので「すべて」であることを意味します。つまり文Aは「日本の古都と呼ばれるものは、京都と奈良の２つだけである」と言っています。一方、「や」は例示を表します。文Bは「日本の古都の例として京都と奈良がある（他にも鎌倉などがあるかもしれない）」という意味を含みます。たった１文字の違いですが、論理的な正確さが求められる科学の定義や契約書においては、この違いが致命的な誤解を生むことになります。

2. キーワード拾い読みの限界

「文章が読めない」と悩む人の多くは、「自分には語彙力がないからだ（難しい言葉を知らないからだ）」と考えがちです。しかし実際は、読解力を決定づける最も原始的（プリミティブ）で重要な要素は、「助詞の使い方の法則」です。例えば、難しい専門用語を知っていたとしても、それらをつなぐ「て・に・を・は」の解釈を間違えれば、文の意

味は180度変わってしまいます。逆に、キーワードの意味がわからなくても、助詞の働きさえ正確につかめていれば、文の構造（何が主語で、何がどうなったのか）は見失いません。

3. 助詞の穴埋め問題

実際に、中学校の教科書に使われている文章で、助詞の力を試してみましょう。以下の（　）に適切な助詞を入れてください。

朝廷は、農民（　）開墾した土地（　）私有地として認め、税（　）納めさせました。農民（　）与えられた土地と、そこから得られる収穫物（　）厳重に管理されました。

いかがでしょうか。なんとなくで読んでいませんか？正解は順に、「が」「を」「を」「に（またはが）」「は（またはが）」です。特に最初の「農民が」を間違えるケースが多く見られます。「農民を開墾した」としてしまうと意味が通りません。「開墾した」のは誰か（動作の主体）を捉える力が問われます。このように、助詞一文字で「誰が何をしたか」という歴史の因果関係がまったく変わってしまうのです。

4. 助詞力と構文理解の相関関係

文の構造を把握する力と、助詞を正しく使う力には、密接な関係があることが分かっています。つまり、「助詞を正しく使える人」＝「文の構造が正しく見えている人」なのです。日本語の文構造が身体に染み付いているかどうかは、読解のスピードと正確さを左右します。そのため、キーワードの穴埋めではなく「助詞の穴埋めトレーニング」を行うことが推奨されます。文章から助詞を抜いたものを用意し、そこに適切な助詞を埋めさせる訓練は、誤読を防ぐための非常に効果的な「準備体操」となります。

まとめ

読解力を高めるために、難しい熟語を暗記する必要はありません。まずは、日常的に目にする文章の「て・に・を・は」に意識を向け、文の骨組みを正しく捉える習慣をつけることから始めましょう。

03

読解力理解のための概念・用語

読解力育成で問われる重要キーワード

論理的な文章作成において頻出する重要な概念・用語について解説します。これらを理解することは、自分の「読み・書き」のクセを修正する羅針盤となります。

1. 係り受け（かかりうけ）

文の中での言葉と言葉のつながりのことです。どの言葉が、どの言葉を詳しく説明（修飾）しているかという関係を指します。特に重要なのが「主語と述語の関係」です。文が長くなると、主語と述語が離れてしまい、ペアがかみ合わなくなることがあります。

悪い例（ねじれ文）：「このプロジェクトの目的は、売上を向上させます。」

→文法的にねじれています。主語である「目的」は、「向上させる」という行動を行う主体（人や物）ではないため、「〜ます」という動詞で結ぶことができません。

修正：「このプロジェクトの目的は、売上を向上させることです。」

→主語が「目的」「趣味」「理由」などの場合、述語ではその中身が「何であるか」といった名詞の形で結び、「A（目的）＝B（〜ということ）」の関係をつくるのが基本です。
このような「ねじれ文」を書いてしまう人は、文の骨格を掴む「文の構造把握」の理解が低い傾向にあります。

2. 「〜し、」の形

「このスマホは画面が大きいし、色がきれいだ」のように、動詞や形容詞の連用形で文を一旦区切り、次の文へとつなげる手法です。 リズムを作るのに便利な表現ですが、多用しすぎると「〜し、〜であり、〜して」と文がだらだら続き、何が原因で何が結果なのか不明瞭になります。 一つの文の中で「〜し、」の形が３回以上使われている場合は、読みにくさを解消するために、文を二つに分けるなどの修正が必要です。

3. 指示語の理解と省略の補完

「これ」「それ」「彼」などの指示代名詞が何を指しているかを特定することを「指示語の理解」と言います。さらに日本語では、文脈から明らかであれば主語や目的語をわざわざ書かないことがよくあります。

例：「新しい旗ビルの建設について、A建設は計画を発表した。
来月には着工される予定だ。」

後半の文には「誰が」着工するのかが書かれていませんが、文脈から「A建設」であることがわかります（省略の補完）。新聞記事やビジネスメールでは、文字数を減らすためにこの省略が多用されます。「誰が着工するのか？」のように、省略された主語を脳内で補完しながら読む力が、文脈を正しく追うための鍵となります。

4. 同義文

使われている単語や語順が違っても、意味内容が論理的に同じである文のことです。

例（能動と受動）：「部長が部下を褒めた」と「部下は部長に褒められた」
例（数学的な言い換え）：「全校生徒の 25%」と「全校生徒の４分の１」

相手の難解な説明を「つまり、〇〇ということですね？」と自分の言葉で要約して確認するスキルは重要ですが、これはまさに「言い換えの理解」の能力そのものです。

5. 定義文

「AとはBのことである」「AをBという」といった形式で、言葉の意味や概念をルールとして定める文のことです。仕様書や契約書において、最も読み飛ばしてはいけない部分です。

6. 図表と文章の照合

文章と、図表（グラフや図）の内容を正しく対応させる能力です。 ビジネス資料でよくあるのが、グラフから読み取れる事実と、個人の感想を混同してしまうミスです。グラフを正しく読む（または説明する）ためのポイントは以下の通りです。

タイトルを「そのまま」主語にする：グラフを読むとき、多くの人は無意識に言葉を変換してしまいます。例えば、「気温の変化」というタイトルのグラフを見て、「暑くなった」と言ってしまうのがその例です。「暑い」は人が感じる感覚（感想）であり、グラフには書かれていません。正しくは、タイトルの言葉を使い、「気温が上昇した」と読み解きます。このように、タイトルの言葉をそのまま文の主語にすることで、主観が入るのを防げます。

客観的な表現を使う：「急激に増えた」「わずかに減った」といった主観的な形容詞は人によって感じ方が違うため、データの説明としては不適切です。「前年比 1.5 倍になった」「3%減少した」のように、数値を根拠にした言葉を使います。

割合か実数か：「失業率（%）」が下がっていても、人口が増えていれば「失業者数（人）」は増えているかもしれません。割合のグラフなのか、実数（量）のグラフなのかを区別することは、データ読解の基本です。

7. 具体例の特定

言葉の定義を読み取り、その定義に当てはまる具体的な事例を選び出す能力です。例えば、「素数とは、1と自分自身以外では割り切れない自然数のことである」という定義文を読み、具体的な数字（例：2 や 7）がそれに当てはまるかを判断することです。なんとなく知っている知識で解くのではなく、書かれている「定義」のルール通りに判定する厳密さが求められます。

まとめ

これらの用語は、読解力を判断する６つの能力（文の構造把握、指示語の理解と省略の補完、言い換えの理解、推論、図表と文章の照合、具体例の特定）と密接に関わっています。日々の読書や業務の中で、「あ、今は主語が省略されているな」「これは定義文だから線を引こう」と意識することで、漫然とした読書が論理的なトレーニングへと変わります。

②授業２：文の構造把握、指示語の理解と省略の補完、言い換えの理解

<table>
<tr><th colspan="3">授業の位置づけ</th></tr>
<tr><td colspan="3">読解力単元の基礎段階として、文章を一文ずつ追う読み方から、構造を捉えて理解する読み方へ移行する回に位置づける。助詞・係り受けを踏まえつつ、文の構造、指示語、省略、言い換えといった要素を整理することで、公務員試験の文章理解問題に必要な「読み落とさない力」を形成する。その観点から、次の３つの項目について学習する。
１．文章の構造を理解し、適切な主語、述語を把握する。
２．指示語が示す言葉を理解して文章を読む。
３．言い換えについて理解する。</td></tr>
<tr><th colspan="3">到達目標</th></tr>
<tr><td colspan="3">１．文の構造（主文・補足・具体）を意識して読める
２．指示語が何を指しているかを文中から特定できる
３．言い換え表現を同一内容として捉えられる</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業構成</th></tr>
<tr><td colspan="3">教材を基に「読解力の事例」→「読解力理解」→「課題」</td></tr>
<tr><th colspan="3">使用教材</th></tr>
<tr><td colspan="3">読解力育成教材</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業進行</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>□授業の目的の説明
教員は、「文章理解問題で間違える原因の多くは、語彙不足ではなく文章のつながりを捉えられていないこと」であることを説明する。そのうえで、「今日は、文章の中で“何がどうつながっているか”を確認する読み方を学ぶ」と授業の狙いを示す。</td><td>□教員発話例
「公務員試験の文章理解問題で間違える理由を見ていくと、難しい言葉が分からないからではなく、文章のつながりを取り違えているケースがとても多いです。
たとえば、『これ』『それ』『このような』と書いてあるとき、それが何を指しているのかを確認し</td></tr>
</table>

		ないまま読んでしまう。あるいは、書かれていない主語や目的語を、自分の思い込みで補ってしまう。今日は、そういった読み間違いを防ぐために、文章を一文ずつ追うのではなく、この文は何を説明しているのか、どこが中心で、どこが補足なのか、という視点で文章を読む練習をします。国語の授業のように正解を当てることが目的ではありません。試験でミスをしない読み方を理解することが今日のゴールです。」
展開	□P8　04 文の構造把握 主となる内容/補足説明の切り分けをし、一文・一段落の中で何が中心の説明かどこが補足・具体かを切り分けて読むように指導する。 □ P10　05 指示語の理解 指示語は必ず前後のどこかを指している。指示語を見つけたら、「何を指しているか」を必ず確認するように伝える。教材を使用し、 ・指示語が含まれる文を抜き出す。 ・矢印や線で「指している内容」を結ばせる。 □ 省略の補完 日本語の文章では、主語・目的語が省略されることが多い。そのため、省略された内容は、前後の文から補う。	□教師発話例 「『これ』って書いてあったら、必ず『これ＝何？』と止まってください。なんとなく分かった、で先に進むと、後で必ずズレます。」「指示語は、前の文をちゃんと読んでいますか、というチェック問題だと思ってください。」 □教員発話例 「省略は、前後をちゃんと読めている人だけが補える仕組みです。」

	教材の例題を示し、省略の解説を行う。 □ P12　06 言い換えの理解 同じ内容が、別の言葉・別の言い方で書かれていることを理解させる。 「新しい話」ではなく「同じ話を言い直している」ことに気づかせる。 □文章理解問題演習２の実施 問題演習を実施し、解説する。	
まとめ	□P9～問題１～７までを解答させ、解説する。 □文の構造・指示語・省略・言い換えを意識する。	
評価観点		
１．文の構造を意識して読もうとしているか ２．指示語・省略・言い換えを根拠に判断できているか		
評価基準（授業単位での評価の参考）		
１．授業の取り組み姿勢（質疑の発話、課題の取り組み） ２．構造・指示語等をふまえて内容を説明できる		

□指導のポイントと対応

・P8～文の構造把握

例題の中から、主語と述語を見つけさせて文の骨格を確認します。

> 世界中の海に広く分布し、地球史上最大の動物とされるシロナガス
> クジラは、主にオキアミという小さな甲殻類を食べて生活している。

・P10～指示語の理解と省略の補完

文を簡潔にするために主語、目的語が省略されることを例題で示し、文の読み取りにおいて、なんとなく読めるのではなく、何が省略されているかを意識して読み取ることを伝える。

東京スカイツリーは、日本で最も高い建造物である。最上部に位置する展望台は地上 450 メートルの高さにあり、晴れた日には関東平野を一望できる。

主語が展望台であり、同文中の「、」の後も主語が変わっていないことを確認させる。

・P12～言い換えの理解

学生の思い込みとして「言葉が似ている＝同じ意味」という判断にならないように伝え、根拠をもって考えることの重要性を示す。特に、助詞や修飾語の位置に注意を払うように伝え、試験問題の読み取りでも同様の注意が必要になることも加える。

・「文章理解問題演習 2 」の実施

問題解答時間は 20 分～30 分（学生理解度に応じて）を目安に設定。

解答、解説を実施。

なお、各学校で既存教材やテスト、プリント類などの学校独自教材類がある場合は、それを使用することも可能。

□使用教材（読解力育成教材）

04
文の構造把握

「文の構造把握」とは、文の構造（骨組み）を把握する力です。どの言葉がどの言葉を修飾しているか、主語に対する述語はどれかを瞬時に見抜く能力が問われます。

Point

❶主語と述語のペアを見つける
長文でも「誰が」「どうした」の骨幹を見失わない。

●ねじれ文を防ぐ
「こと」「もの」などの形式名詞を使って、主語と述語の整合性を保つ。

●「～し、」の形の多用を避ける
「～し、」「～であり、」のように動詞や形容詞の連用形で文を一旦区切ってつなげる表現を連用中止と言い、リズムをつくるのには便利だが、主語と述語の関係が見えにくくなるため注意が必要。

【例題】（修飾語と被修飾語）
以下の文を読みなさい。

世界中の海に広く分布し、地球史上最大の動物とされるシロナガスクジラは、主にオキアミという小さな甲殻類を食べて生活している。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから１つ選びなさい。

主にオキアミを食べて生活をしているのは（　）である。

① 海　② 地球　③ 動物　④ シロナガスクジラ

【例題の解答・解説】
正解：④
文の骨格（主語と述語の関係）をつかむ問題です。この文の述語部分は「食べて生活している」です。では、「誰が」食べているかを文頭から見ていくと、「シロナガスクジラは」という主語が見つかります。

【問題 1】（長い修飾語の解析）
以下の文を読みなさい。

秦の始皇帝によって造営・延長され、その後も増築が繰り返された万里の長城は、北方騎馬民族の侵入を防ぐための巨大な防壁である。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから１つ選びなさい。

北方騎馬民族の侵入を防ぐための防壁は（　）である。

① 始皇帝　② 万里の長城　③ 騎馬民族　④ 秦

【問題 2】（定義の主語特定）
以下の文を読みなさい。

スマートフォンの普及に伴い、個人の行動履歴や購買データなどを活用したデジタルマーケティングという手法が、多くの企業で採用されている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから１つ選びなさい。

多くの企業で採用されているのは（　）である。

① スマートフォン　② 行動履歴　③デジタルマーケティング
④ データ

05
指示語の理解と省略の補完

「指示語の理解」とは、指示代名詞（これ、それ）や、省略された主語・目的語（省略の補完）が、具体的に何を指しているかを正しく把握する能力です。
特に新聞のリード文やビジネス文書では、内容を簡潔にするために言葉が省略されることが多く、「何が」その動作を行なったのかを見失いがちです。

Point

❶省略の補完を見つける
文中で省略されている主語や目的語に気付き（　）で補ってみる。
●直前を探す
指示語や省略された言葉は、基本的に直前の文や節にある名詞を指す。
●文脈を補う
「～と考えられている」などの文末表現も含め、誰の見解なのか、誰の動作なのかを整合させる。

【例題】（主語の省略）
以下の文を読みなさい。

東京スカイツリーは、日本で最も高い建造物である。最上部に位置する展望台は地上 450 メートルの高さにあり、晴れた日には関東平野を一望できる。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを１つ選びなさい。

晴れた日に関東平野を一望できるのは（　）である。

①東京スカイツリー　②最上部　③展望台　④地上

【例題の解答・解説】
正解：③
問題の文は「展望台は」という主語で始まっており、文の途中で主語が変わらない限り、後半部分では主語が省略されます。そのため、「地上 450 メートルの高さにあり」に続く、「関東平野を一望できる」の主語も、そのまま「展望台」となります。全体の話題であるスカイツリーではなく、その文の直接の主語を選ぶのが正解です。

【問題 3】（主語の特定）
以下の文を読みなさい。

浮世絵は、江戸時代に成立した日本の絵画ジャンルの一つである。ゴッホやモネなどの西洋の画家たちにも大きな影響を与え、ジャポニスムというブームを引き起こした。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを１つ選びなさい。

西洋の画家たちにも大きな影響を与えたのは（　　）である。

①浮世絵　②江戸時代　③ジャポニスム　④ブーム

【問題 4】（指示語の内容）
以下の文を読みなさい。

近年、AI 技術の進化により、自動翻訳の精度が飛躍的に向上している。このことは、言語の壁を越えたコミュニケーションを促進し、ビジネスや観光の分野に大きな変化をもたらしている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを１つ選びなさい。

言語の壁を越えたコミュニケーションを促進しているのは（　　）である。

①AI 技術　②自動翻訳　③自動翻訳の精度の向上　④ビジネスや観光

06

言い換えの理解

「言い換えの理解」とは、２つの文が表す意味が「同じ」か「異なる」かを正しく判断する能力です。一見似ている文でも、助詞ひとつ、修飾語の位置ひとつで意味が大きく変わることがあります。

Point

- ❶助詞の機能に注目する
  特に「と」と「や」の違いは重要です。「と」は並列（全部）、「や」は例示を表す。
- ●能動と受動
  「Ａが Ｂを～した」と「Ｂは Ａに～された」のような型の変換を正しく読み取る。
- ●語順と修飾
  数学の文章題などでは、語順を変えて意味を変えずに言い換える（翻訳する）力が必要。

【例題】（能動と受動の言い替え）

以下の文を読みなさい。

> 夏目漱石は、近代日本人の精神的苦悩を描いた傑作「こころ」を執筆した。

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

近代日本人の精神的苦悩を描いた傑作「こころ」は夏目漱石によって執筆された。

① 同じである　② 異なる

【例題の解答・解説】

正解：①

これは「Ａが Ｂを執筆した」という能動文を、「Ｂは Ａによって執筆された」という受動文に書き換えたもので、意味内容は完全に一致します。

【問題 5】（因果関係の逆転）

以下の文を読みなさい。

> 地球温暖化が進行し海面水温が上昇したため、台風の勢力が強まった。

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。

台風の勢力が強まった結果、地球温暖化が進行し海面水温が上昇した。

① 同じである　② 異なる

【問題 6】（並列と例示）

以下の文を読みなさい。

> 光の三原色は、赤と緑と青である。

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。

光の三原色は、赤や緑や青である。

① 同じである　② 異なる

【問題 7】（数量・範囲の包含関係）

以下の文を読みなさい。

> ペンギンの中には、南極大陸以外に生息する種も存在する。

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。

すべてのペンギンは、南極大陸に生息しているわけではない。

① 同じである　② 異なる

③授業３：推論・図表と文章の照合・具体例特定による文章理解

<table>
<tr><th colspan="3">授業の位置づけ</th></tr>
<tr><td colspan="3">第３回は、構造的な読み方を基礎として、書かれている情報を根拠に判断する「推論」の力を育成する回に位置づける。
文章と図表を照合し、具体例がどの内容を説明しているかを整理することで、教養試験の文章理解問題への対応力を高める。その観点から、次の３つの項目について学習する。
１．文章に書かれている情報を根拠として判断する
２．文章・図表・具体例を相互に照合し、情報の対応関係を整理する
３．教養試験の文章理解問題に直結する実践的な読解力を定着させる</td></tr>
<tr><th colspan="3">到達目標</th></tr>
<tr><td colspan="3">１．書かれている内容を根拠に推論できる
２．図表や数値と文章の内容を照合できる
３．具体例がどの説明に対応しているか特定できる</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業構成</th></tr>
<tr><td colspan="3">教材を基に「読解力の事例」→「読解力理解」→「課題」</td></tr>
<tr><th colspan="3">使用教材</th></tr>
<tr><td colspan="3">読解力育成教材</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業進行</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>□授業の目的の説明
「なんとなく考える」のではなく、「書いてあることを根拠に判断する」読み方を理解することが、公務員試験対策でも有効であることを伝える。
「勝手に考えたこと」と「根拠から言えること」を常に区別させることがポイント。</td><td>□教員発話例
「前回は、文章の中で何がどこにつながっているかを意識して読む学習をしました。その読み方を使って、文章理解問題でよく出る「推論」の問題に取り組みます。ここで一つ大事なことを言います。推論問題は、考えを広げる問題ではありません。想像力を働か</td></tr>
</table>

		せる問題でもありません。推論とは、文章や図表に書いてある情報を材料にして、そこから言えることを判断する作業です。よくある間違いは、『たぶんこうだと思う』『自分だったらこう考える』と、文章に書いていないことを足してしまうことです。また、公務員試験では、文章だけでなく、グラフや表が一緒に出てくることがあります。今日は、この図や数字は、文章のどこを説明しているのか、この具体例は、何を分かりやすくするために出ているのかを確認しながら読んでいきます。作文や面接試験でも、『なぜそう言えるのか』と聞かれますよね。そのときに必要なのが、根拠をもとに説明する力です。今日は、なんとなくそう思った、ではなく、ここにこう書いてあるから、こう言える、という読み方を理解することを目標に進めていきましょう。」
展開	□P14　07 推論 推論とは何かを確認し、推論＝想像ではなく、文章に書かれている情報を材料にした判断であることを整理する。 □ P16　08 図表と文章の照合 図表・グラフ・数値が文章のどの部分を説明しているかを確認する。	□教員発話例 「推論問題は、頭をひねる問題ではありません。書いてある情報を集めて、整理する問題です。」

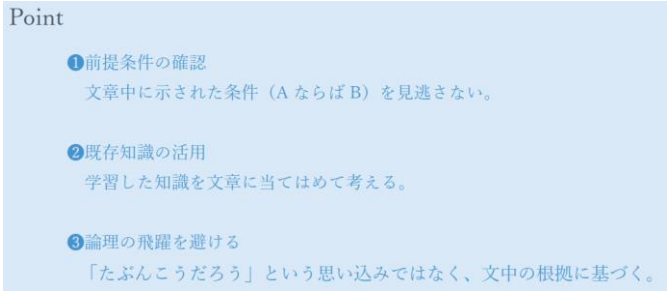
	図表を「単独で見る」のではなく、必ず文章とセットで読む練習を行う。 □P18　09 具体例の特定 具体例は「新しい主張」ではなく、「説明を補うもの」であることを確認する。 具体例が、どの説明・主張を支えているかを特定する。 □P15～問題 8～11 までを解答させ、解説する。 □文章理解問題演習 3 の実施 問題演習を実施し、解説する。	
まとめ	□常に書いてあるか、根拠はどこかを問い返す推論を「感覚」から「作業」に変えることがゴール	

評価観点
1．根拠をもとに推論しようとしているか 2．図表・具体例を文章と結びつけて理解できているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
1．授業の取り組み姿勢（質疑の発話、課題の取り組み） 2．根拠を示しながら推論・判断ができる。

□指導のポイントと対応

・P14～推論

推論することと、自らの思い込みや経験値で過剰推論することの違いを理解させる必要がある。そのため、テキストのポイントから推論の条件等を確認する。


Point

❶前提条件の確認
文章中に示された条件（A ならば B）を見逃さない。

❷既存知識の活用
学習した知識を文章に当てはめて考える。

❸論理の飛躍を避ける
「たぶんこうだろう」という思い込みではなく、文中の根拠に基づく。

推論は、文の中心条件、因果関係を把握していない状態で行うと誤るため、推論問題では必ず「事実（本文に書いてあること）」「条件（いつ、どの場合か）」「そこから言えること」の順序を守らせることを伝える。

・P16～図表と文章の照合

図表と文章の照合は、公務員試験問題を解くうえでも重要になることを伝えたうえで、図表だけ見て文章を読み飛ばさないように注意を促す。そのうえで、図表は文章に書いてある内容を別の形で示したものであり、文章を整理したものが図表になるというイメージで取り組むことを伝える。

また、照合が苦手な学生は、頭の中だけで対応させようとして混乱する傾向があることから、本文に線、図表に丸を付けさせ一対一で対応させる作業を入れて考える方法もあることを伝える。

・P18～具体例の特定

学生の陥りやすいミスとして、具体例を読んで満足してしまう、例をそのまま答えにしてしまうことがあるため、具体例は説明のための材料であり、答えはその上位にある内容であることが多いこと、また、具体例を見つけたら、必ず「何を説明するための例か」を問うことを意識させる。そのうえで、テキストのポイントを確認し、例題を解説する。

・「文章理解問題演習 3 」の実施

問題解答時間は 20 分～30 分（学生理解度に応じて）を目安に設定。

解答、解説を実施。

なお、各学校で既存教材やテスト、プリント類などの学校独自教材類がある場合は、それを使用することも可能。

□教材サンプル

07
推論

「推論」とは、書かれている情報と、既存の知識（一般常識や文脈）を組み合わせて、明示されていない事実を導き出す能力です。

Point

❶前提条件の確認
文章中に示された条件（A ならば B）を見逃さない。

❷既存知識の活用
学習した知識を文章に当てはめて考える。

❸論理の飛躍を避ける
「たぶんこうだろう」という思い込みではなく、文中の根拠に基づく。

【例題】（最上級と比較級）
以下の文を読みなさい。

信濃川は日本で最も長い川である。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

利根川は信濃川よりも短い。

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

【例題の解答・解説】
正解：①
「信濃川＝日本一長い」という前提があるため、信濃川以外のすべての日本の川（利根川を含む）は、信濃川よりも短いことになります。したがって論理的に「正しい」となります。

【問題 8】（包含関係）
以下の文を読みなさい。

哺乳類はすべて肺で呼吸をする動物である。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

イルカが肺で呼吸をすることはない。

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

【問題 9】（統計的確率と個人の属性）
以下の文を読みなさい。

あるアンケート調査によると、20 代の男性の 80%が「スポーツが好きだ」と回答した。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

20 代男性である A さんは、スポーツが好きだ。

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

08
図表と文章の照合

「図表と文章の照合」とは、文章と図表（グラフ、地図、構式図）を正しく対応させる能力。文章で説明されている内容をグラフから読み取ったり、逆にグラフの特徴を言葉で表現したりする力です。

Point

❶形容詞と助詞をチェックする
「黒い円」なのか、「白い円」なのか、「右にある」のか「右へ移動した」のか。細部の条件を見逃さない。

❷数値と割合の照合
グラフ問題では、文章にある数値（例：60%）や大小関係（A は B より多い）が、図に正確に反映されているか計算して確かめる。

❸消去法で絞り込む
「この条件は満たしているが、あの条件は違う」という図は除外していく。
「なんとなく合っている」ではなく「ここが違うからダメ」と判断する。

【例題】（図形と条件の照合）
以下の文の内容を表す図として適当なものをすべて選びなさい。

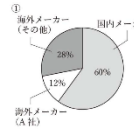
白い正方形の中に、灰色の三角形がある。

① 
② 
③ 
④ 

【例題の解答・解説】
正解：①③
文章の条件は、外側が「正方形」であり、その正方形の中に「灰色」の「三角形」があることです。この条件を満たす図をすべて選びましょう。
①：すべての条件を満たしているので正解です。
②：色の条件が逆（正方形が灰色、三角形が白）なので不適当です。
③：正方形は傾いていても「正方形」という定義は変わりはありません。他の条件も満たしているので正解です。
④「中に」という位置関係の条件を満たしていないため不適当です。

【問題 10】（割合と内訳の計算）
以下の図のうち、下記の説明から読み取れる「ある商品の市場シェア」を表すグラフとして正しいものを選びなさい。

説明：国内メーカーのシェアが全体の 60%を占めている。残りの 40%は海外メーカーであるが、その海外メーカーのうち 3 割を A 社が占めている。

① 

②

③

④

09

具体例の特定

「具体例の特定」とは、定義文（～とは…のことである）を読み取り、その定義に当てはまる具体的な事例を選び出す能力。抽象的な定義を、現実の事象に適用する力です。

Point

❶定義文の特定
「～とは」「～を…という」という形の文（定義文）を探し出す。

❷要件の確認
定義に含まれる条件を一つずつ確認する。

❸当てはめ
具体的な事例が、そのすべての条件を満たしているかチェックする。

【例題】（条件分岐の適用）
以下の文を読みなさい。

> 西暦年数が 4 で割り切れる年は「うるう年」である。ただし、100 で割り切れる年は「平年（うるう年ではない）」とする。しかし、100 で割り切れる年であっても、400 で割り切れる年は「うるう年」とする。

「うるう年」をすべて選びなさい。

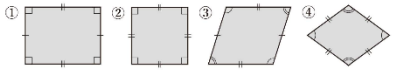
① 2000 年　② 2024 年　③ 2100 年　④ 2022 年

【例題の解答・解説】
正解：①②
定義文に含まれる 3 つの条件（①4 で割れる＝うるう、②100 で割れる＝平年、③400 で割れる＝うるう）を順に適用します。

【問題 11】（定義の包含関係）
以下の文を読みなさい。

> 4 つの角がすべて直角である四角形を「長方形」という。 4 つの辺の長さがすべて等しい四角形を「ひし形」という。

「長方形」をすべて選びなさい。



【問題 12】（例外規定の処理）
以下の文を読みなさい。

> 整数において、3 で割り切れる数を「A グループ」と呼ぶこととする。ただし、3 で割り切れる数であっても、2 でも割り切れる数は「B グループ」とし、「A グループ」には含めない。

「A グループ」に含まれる数をすべて選びなさい。

① 6　② 9　③ 12　④15

④授業４：読解力確認テストと解説

授業の位置づけ		
第４回は、これまで学習してきた文の構造把握、指示語・省略・言い換え、推論、図表と文章の照合、具体例の特定といった読解力の要素が、どの程度定着しているかを確認し、理解を補正する回として位置づける。単なる確認テストではなく、「なぜその選択肢が正解になるのか」「どこを読み取れていなかったのか」を言語化することで、文章理解問題に対する解答力を高める。		
到達目標		
１．読解力テストを通じて、自身の理解度を把握できる ２．各設問について、正誤の理由を文章構造や文脈を根拠に説明できる ３．読解力の各要素（構造・指示語・推論等）を意識して文章を読み直せる		
授業構成		
導入（5 分）→確認テスト（40 分）→解答・解説（40 分）→まとめ（5 分）		
使用教材		
読解力確認テスト		
授業進行		
導入	□授業の目的の説明 今回のテストが「点数をつけるため」ではなく、自分の読み方のクセを知るためのものであることを説明する。 そのうえで、「間違えた問題」よりも「なぜ間違えたのか」が重要であることを強調する。	□教員発話例 「今日は、これまでの読解力の授業を受けて、自分の読み方がどこまで身についているかを確認する回です。最初に大事なことを言います。今日行うテストは、誰かと比べるためのテストでもありません。このテストの目的は、自分がどこは読めていて、どこで読み間違えやすいのかを知ることです。公務員試験の文章理解問題で点を落とす原因は、文章をどう読んで

		いるかのクセにあることがほとんどです。今日は、文の構造を意識して読めているか、指示語や省略を正しく追えているか、推論のときに、自分の考えを足していないか、こういった点を、自分で確認する時間だと思ってください。解けなかった問題があっても、まったく問題ありません。むしろ、『なぜ間違えたかが分かる問題』が見つかることが一番の成果です。テストのあとには、『なぜその答えになるのか』や『どこを読めばよかったのか』を一緒に確認します。ですから、正答数よりも読み方を見直すことを意識して取り組みましょう。」
展開	□読解力問題（30 題） 「直感」ではなく、「文中の根拠」を探しながら解答させる。	□教師発話例 「推論問題は、頭をひねる問題ではありません。書いてある情報を集めて、整理する問題です。」
まとめ	□解答・解説 正解の理由だけでなく、誤答が生じやすい読み方を重点的に解説する。 解説の視点例： ・文の構造把握 ・主語と述語の対応関係の確認 ・指示語・省略 ・「それ」「この問題」が指す内容の特定 ・言い換え	□教員発話例 「これまでの授業で『読解力はセンスではなく、やり方だ』ということを理解してもらえたと思います。このあと、作文の授業を行います。作文でも一番大事なのは、テーマを正しく読み取り、何を書けばいいかを間違えないことです。今回学んだ読み方は、文章理解だけでなく、作文、面接試験、

	「書いてあること」からしか判断できないことの確認 ・図表 図は文章の補足説明であるという位置づけ ・具体例 定義文に合致するかどうかの確認 □必要に応じて、「どこを見れば判断できたか」を学生に発言させ、読み方を共有する。 □読解力授業のまとめとして、以下を確認する。 ・文の構造を意識する ・指示語や省略を止まって確認する ・書いてあることを根拠に判断する	そして実際に公務員になってから文章を読むときにも役立ちます。」

評価観点
1．文の構造や文脈を意識して解答しているか 2．正誤の理由を文章中の根拠をもとに説明しようとしているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
1．設問ごとに根拠を示し、正誤の理由を説明できる 2．指摘があれば、文構造や文脈に基づいて説明できる

□指導のポイントと対応
確認テストにある問題のうち、代表的な６問題と項目理解のポイントを示す。
①文の構造把握（主語・述語・修飾関係）
・抽出問題【問題 1】
「急速なデジタル化が進む現代社会において、情報セキュリティの確保は、企業が信頼を維持するために不可欠な経営課題となっている。」
企業が信頼を維持するために不可欠な経営課題となっているのは（　）である。
選択肢：①現代社会 ②デジタル化 ③情報セキュリティの確保 ④企業

・抽出理由

・主語（情報セキュリティの確保）と修飾語（現代社会において、企業が～ために）を切り分ける必要がある。

・「近くにある名詞」を選ぶ誤答が非常に出やすい。

・文の骨格を追わないと解けない典型問題であり、構造把握の解説に最適。

② 指示語の理解・省略の補完

・抽出問題【問題 5】

「電子書籍は利便性が高い。一方で、独特の質感やページをめくる楽しさがあるのは紙の本である。」

独特の質感やページをめくる楽しさがあるのは（　）である。

選択肢：①電子書籍 ②普及 ③紙の本 ④人

・抽出理由

・「一方で」「あるのは」という表現から、何が対比されているかを正しく追う必要がある。

・主語が省略されており、前文を参照しないと判断できない。

・指示語・省略の典型的な読み違いを解説しやすい。

③ 言い換えの理解（条件・表現の同一性）

・抽出問題【問題 2】

「この大会は、練習に参加した選手、または参加申込をした選手が出場資格を有する。」

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

「この大会は、練習に参加した選手であり、かつ参加申込をした選手が出場資格を有する。」

①　同じである　②　異なる

・抽出理由

・語彙ではなく、条件構造（または/かつ）の理解が問われる。

・「雰囲気が似ている」と誤答しやすい。

・作文・面接試験での条件誤読防止にも直結する。

④ 推論（書いてあることから言えるか）

・抽出問題【問題 4】

「このクラスの生徒の多くはピアノを習っている。」

「田中さんはこのクラスの生徒である。」
→「田中さんはピアノを習っている。」
（正しい/誤り/判断できない）
・抽出理由
　・「多くは＝全員ではない」という論理を正確に理解する必要がある。
　・学生が想像で答えてしまうような問題になっているため、推論＝想像ではないことを説明する。

⑤ 図表と文章の照合
・抽出問題【問題 1】
「黒い円の左側に、白い四角形がある。」　該当する図を選択する問題
・抽出理由
　・図を先に見ると誤答しやすく、文章を基準に条件整理が必要な問題。
　・条件を一つずつ照合する訓練になる問題になっている。
　・教養試験の資料読解との関連で説明できる。

⑥ 具体例の特定（定義と具体の対応）
・抽出問題【問題 4】
「次の定義に当てはまるものをすべて選べ」　複数の具体例から該当するものを選択する問題
・抽出理由
　・定義文に必ず戻る読み方を教える。
　・数値と言葉を一致させる訓練として使いやすい。

□使用教材（読解力確認テスト）

1 文の構造把握

【問題 1】以下の文を読みなさい。
「急速なデジタル化が進む現代社会において、情報セキュリティの確保は、企業が信頼を維持するために不可欠な経営課題となっている。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

企業が信頼を維持するために不可欠な経営課題となっているのは（　）である。

① 現代社会　② デジタル化　③ 情報セキュリティの確保　④ 企業

【問題 2】以下の文を読みなさい。
「平安時代の貴族たちが愛好し、現在でも多くの人々に親しまれている和歌は、五・七・五・七・七の三十一文字で情景や心情を表現する日本の定型詩である。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

五・七・五・七・七の三十一文字で表現する日本の定型詩は（　）である。

① 平安時代　② 貴族　③ 和歌　④ 情景

【問題 3】以下の文を読みなさい。
「強い日差しと乾燥した気候に適応するため、厚い葉や茎に水分を蓄えることができる多肉植物が、砂漠地帯には多く自生している。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

砂漠地帯に多く自生しているのは（　）である。

① 強い日差し　② 厚い葉　③ 水分　④ 多肉植物

【問題 4】以下の文を読みなさい。
「地殻変動によって隆起した地層が、長い年月をかけて川の流れに削り取られることで、今の渓谷の美しい景観が形成された。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

渓谷の美しい景観が形成された原因の一つとして、削り取った主体は（　）である。

① 地殻変動　② 地層　③ 川の流れ　④ 年月

【問題 5】以下の文を読みなさい。
「A 社が開発した新型エンジンは、従来のモデルと比較して燃費効率が大幅に向上しており、環境負荷の低減に貢献すると期待されている。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

環境負荷の低減に貢献すると期待されているのは（　）である。

① A 社　② 新型エンジン　③ 従来のモデル　④ 燃費効率

2 指示語の明確と省略の補完

【問題 1】以下の文を読みなさい。
「佐藤さんは、来週のプレゼン資料を作成するために、過去のデータを分析した。非常に手間のかかる作業だったが、無事に完了した。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

無事に完了したのは（　）である。

① 佐藤さん　② プレゼン資料　③ 過去のデータ　④ データの分析（作業）

【問題 2】以下の文を読みなさい。
「台風 19 号の接近に伴い、主催者は野外フェスの開催を中止すると発表した。安全を最優先に考えた結果、苦渋の決断であった。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

苦渋の決断をしたのは（　）である。

① 台風 19 号　② 主催者　③ 野外フェス　④ 安全

【問題 3】以下の文を読みなさい。
「近年、プラスチックごみによる海洋汚染が深刻化している。この問題は、生態系への悪影響だけでなく、観光被害も懸念されている。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

健康被害が懸念されている対象は（　）である。

① プラスチックごみ　② 海洋汚染　③ 生態系　④ 人間

【問題 4】以下の文を読みなさい。
「田中部長は部下の鈴木さんに、新しいプロジェクトのリーダーを任せたいと伝えた。驚いた様子だったが、すぐに承諾した。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

驚いた様子だったのは（　）である。

① 田中部長　② 鈴木さん　③ 新しいプロジェクト　④ リーダー

【問題 5】以下の文を読みなさい。
「電子書籍の普及が進んでいるが、紙の本を好む人も依然として多い。独特の質感やページをめくる楽しさがあるからだ。」

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから 1 つ選びなさい。

独特の質感やページをめくる楽しさがあるのは（　）である。

① 電子書籍　② 普及　③ 紙の本　④ 人

3 言い換えの理解

【問題 1】以下の文を読みなさい。
「会員登録には、本人確認書類の提出が必要である。」

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

「本人確認書類を提出しなければ、会員登録はできない。」

① 同じである　② 異なる

【問題 2】以下の文を読みなさい。
「この大会は、練習に参加した選手、または参加申込をした選手が出場資格を有する。」

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

「この大会は、練習に参加した選手であり、かつ参加申込をした選手が出場資格を有する。」

① 同じである　② 異なる

【問題 3】以下の文を読みなさい。
「部下からの提案書を、上司が承認した。」

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

「部下からの提案書は、上司によって承認された。」

① 同じである　② 異なる

【問題 4】以下の文を読みなさい。
「気温が下がったため、電力の消費量が増えた。」

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

「電力の消費量が増えた結果、気温が下がった。」

① 同じである　② 異なる

【問題 5】以下の文を読みなさい。
「参加者の過半数が、計画に賛成した。」

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

「参加者のちょうど 50%が、計画に賛成した。」

① 同じである　② 異なる

4 推論

【問題 1】以下の文を読みなさい。
「サッカーの試合時間は前後半あわせて 90 分である。」

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

「サッカーの試合時間は前後半あわせて 100 分である。」

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

【問題 2】以下の文を読みなさい。
「A さんは B さんよりも年上である。B さんは C さんよりも年上である。」

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

「A さんは C さんよりも年上である。」

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

【問題 3】以下の文を読みなさい。
「フランス人は全員、ワインが好きである。」

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

「フランス人であるピエールさんは、ワインが好きではない。」

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

【問題 4】以下の文を読みなさい。
「このクラスの生徒の多くは、ピアノを習っている。」

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

「このクラスの生徒である田中さんは、ピアノを習っている。」

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

【問題 5】以下の文を読みなさい。
「金属は電気を通す性質を持っている。銅は金属である。」

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

「銅は電気を通す。」

① 正しい　② まちがっている　③ 判断できない

5 図表と文章の照合

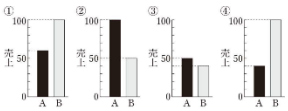
【問題 1】以下の図のうち、下記の説明から読み取れる図として正しいものを選びなさい。

説明：「黒い円の左側に、白い四角形がある。」



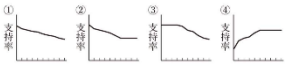
【問題 2】以下の図のうち、下記の説明から読み取れるグラフとして正しいものを選びなさい。

説明：「A の売上は B の売上の半分以下である。」



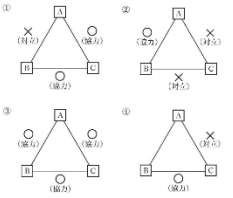
【問題 3】 以下の図のうち、下記の説明から読み取れるグラフとして正しいものを選びなさい。

説明：「支持率は徐々に低下していたが、ある時点から横ばいになった。」



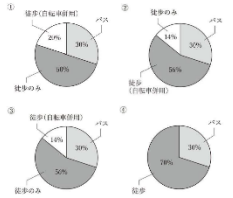
【問題 4】以下の図のうち、下記の説明から読み取れる関係図として正しいものを選びなさい。

説明：「A チームと B チームは対立しているが、C チームとはどちらも協力関係にある。」



【問題 5】 以下の図のうち、下記の説明から読み取れる「あるクラスの通学方法の内訳」を表すグラフとして正しいものを選びなさい。

説明：「バス利用者は全体の 30%である。残りの 70%は徒歩通学者であるが、その徒歩通学者のうち 2 割は自転車も併用している。」



6 具体例の特定

【問題 1】以下の文を読みなさい。
「1、2、3…のように物を数えるときに使う数を『自然数』という（0 は含まない）。」

自然数をすべて選びなさい。
① 0　② 1　③ -5　④ 100

【問題 2】以下の文を読みなさい。
「3 つの辺の長さがすべて異なる三角形を『不等辺三角形』という。」

不等辺三角形をすべて選びなさい。
① 辺の長さが（3, 4, 5）の三角形　② 辺の長さが（5, 5, 8）の三角形
③ 辺の長さが（6, 6, 6）の三角形　④ 辺の長さが（10, 12, 13）の三角形

【問題 3】以下の文を読みなさい。
「西暦年数が 100 で割り切れるが、400 では割り切れない年を『平年』とする（本来うるう年となる計算だが例外的に平年とする）。」

上記の定義における「平年」をすべて選びなさい。
① 1900 年　② 2000 年　③ 2100 年　④ 2024 年

【問題 4】 以下の文を読みなさい。
「水溶液の性質において、pH（ピーエイチ）が 7 未満のものを『酸性』、7 のものを『中性』、7 より大きいものを『アルカリ性』という。」

アルカリ性の水溶液をすべて選びなさい。
① pH 3.0 の水溶液　② pH 7.0 の水溶液　③ pH 8.5 の水溶液　④ pH 12.0 の水溶液

【問題 5】 以下の文を読みなさい。
「商品価格に消費税 10%を加えた金額を『税込価格』という。ただし、1 円未満の端数が出た場合は切り捨てるものとする。」

本体価格 123 円 の商品の『税込価格』として正しいものを選びなさい。
① 135.3 円　② 136 円　③ 135 円　④ 123 円

解答解説

1 文の構造把握

【問題 1】正解：③
　文の構造解析の問題です。述語「経営課題となっている」に対する主語は「情報セキュリティの確保は」です。「企業が」は修飾節の中の主語であり、全体の主語ではありません。
【問題 2】正解：③
　「日本の定型詩である」という述語に対応する主語は「和歌」です。直前の「五・七・五……で表現する」という部分も和歌を説明しています。
【問題 3】正解：④
　「自生している」の主語は「多肉植物が」です。「痩せ・口光し」や「水分」は、多肉植物が適応している環境や特徴を説明する言葉です。
【問題 4】正解：③
　「削り取った主体」を問う問題です。受動態の文「川の流れに削り取られる」を能動態で考えると、「川の流れが（地面を）削り取った」となります。
【問題 5】正解：②
　「貢献すると期待されている」のは「新型エンジン」です。A社は開発者であり、環境負荷低減の機能を持つのはエンジンそのものです。

2 指示語の理解と省略の補完

【問題 1】正解：④
　直前の文にある「非常に手間のかかる作業」が、完了した対象です。文脈上、これは「データの分析」を指します。
【問題 2】正解：②
　中止を発表し、決断を下したのは「主催者」です。台風は原因、安全は判断基準です。
【問題 3】正解：④
　健康被害とは、人が受ける被害のことです。したがって、懸念されている対象は「人間」です。「プラスチックごみ」は被害の原因であり、被害を受ける対象ではありません。
【問題 4】正解：②
　「任せたいと伝えた」のは田中部長、「驚いた」のは伝えられた側の鈴木さんです。省略された主語を文脈から補います。
【問題 5】正解：③

「これ（質感やめくる楽しさがあるもの）」は、直前に述べられている「紙の本」を指します。電子書籍との対比で語られています。

3 言い換えの理解

【問題 1】正解：①
「必要である」という条件は、論理的に「なければできない」と同義です。
【問題 2】正解：②
「または（OR）」と「かつ（AND）」の違いです。「または」はどちらか一方でも可、「かつ」は両方必須なので意味が異なります。
【問題 3】正解：①
能動態（承認した）と受動態（承認された）の書き換えであり、事実は同じです。
【問題 4】正解：②
因果関係の逆転です。上は「気温低下→消費増」、下は「消費増→気温低下」となっており異なります。
【問題 5】正解：②
「過半数」は「半数を超える（>50%）」ことであり、50%ちょうどを含みません。

4 推論

【問題 1】正解：②
「90 分である」という記述と「100 分である」という記述は矛盾するため、まちがっています。
【問題 2】正解：①
A>B、B>C ならば A>C という推移律により、正しいと判断できます。
【問題 3】正解：②
「全員が好き」という前提がある以上、フランス人であるピエールさんが「好きではない」という文は前提に反します。
【問題 4】正解：③
「多くは」という表現は全員を指しません。正中さんが多数派に含まれるか少数派かは特定できないため、判断できません。
【問題 5】正解：①
「全員は電気を通す」かつ「銅は金属である」ならば、「銅は電気を通す」という結論は論理的に正しいです。

5 図表と文章の照合

【問題 1】正解：①
「黒い円の左側に、白い四角形」という位置関係を満たす図を選びます。
【問題 2】正解：④
B（100）の半分は 50 です。A は 50 以下でなければなりません。40 は条件を満たします。
【問題 3】正解：③
「低下（下がる）」ー「横ばい（水平）」という推移を表すグラフを選びます。
【問題 4】正解：①
対立関係（×）と協力関係（○）を正しく配置した図を選びます。
【問題 5】正解：③
割合の計算です。徒歩全体（70%）の 2 割は、全体から見ると 14%（0.7×0.2）になります。

6 具体例の特定

【問題 1】正解：②⑥
定義により、0 と負の数は除外されます。
【問題 2】正解：①④
辺すべての長さが異なるものを選びます。(5,5,8) は二等辺、(6,6,6) は正三角形です。
【問題 3】正解：①③
1900 年, 2100 年 定義（100 で割れるが 400 で割れない）に従い判断します。2000 年は 400 で割れるため除外されます。
【問題 4】正解：③④
pH（ピーエイチ）が 7 より大きいものを選びます。
【問題 5】正解：③
定義（端数切り捨て）に従い、0.3 を切り捨てて 135 円となります。

⑤授業５：作文作成

<table>
<tr><th colspan="3">授業の位置づけ</th></tr>
<tr><td colspan="3">本科目における作文力育成の出発点である。本授業では、作文技術の指導に入る前段階として、学生が現在どの程度テーマを読み取り、時間内に文章として書き切ることができるのかを把握することを主な目的とする。公務員試験の作文に対して多くの学生が抱く「何を書けばよいか分からない」や「うまく書けない」という体験を通して、今後の学習によって改善可能な課題であることを理解させるための導入である。その観点から、次の２つの項目について学習する。
１．作文力単元の導入・現在地確認に位置づける
２．技術指導に入る前に、「自分は何ができていて、何ができていないか」を可視化する</td></tr>
<tr><th colspan="3">到達目標</th></tr>
<tr><td colspan="3">１．制限時間内に、テーマに沿った文章を書き切ることができる
２．テーマに沿った体験、考えを文章として表現する</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業構成</th></tr>
<tr><td colspan="3">導入→作文→まとめ</td></tr>
<tr><th colspan="3">使用教材</th></tr>
<tr><td colspan="3">作文力育成教材</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業進行</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>□授業の目的の説明
公務員試験における作文の位置づけを説明する。
「上手に書く必要はない」「今の力を見るため」ということを伝える。</td><td>□教員発話例
「今日は、うまく書くという授業ではありません。今の自分が、どこで止まるのかを知るために書きます。」</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>□作文テーマ提示（800 字、60 分）
作文テーマの参考例
・あなたが目指す公務員像とは何ですか。あなたの考えを述べなさい。</td><td>□教員発話例
「作文テーマに沿って作文時間 60 分文字数 800 字で作文を作成します。どこで手が止まるのか、確認しながら作文してください。」</td></tr>
</table>

	・あなたが思う理想の社会人について述べなさい。 ・私が自慢したい私の個性について述べなさい。 ・あなたが住んでいる地域の課題を一つ挙げ、それに対して市役所ができる取り組みを述べなさい。	
まとめ	□書けた点・手が止まった点を振り返り、発表する。	□教員発話例 「では、自分の作文を見直して、手が止まったところを自分なりに整理しましょう。」
評価観点		
1．設問から大きく逸脱していないか 2．文章として最後まで書き切っているか		
評価基準（授業単位での評価の参考）		
1．授業の取り組み姿勢（質疑の発話、課題の取り組み） 2．設問に沿い、一定のまとまりで書けている		

□指導のポイントと対応

・添削は行わず、これから作文授業を受けるための現状確認に徹する。

・学生には、「直せる前提」を明確に伝えたうえで作文させる。

⑥授業６：誤字・脱字、送り仮名、表記ゆれ

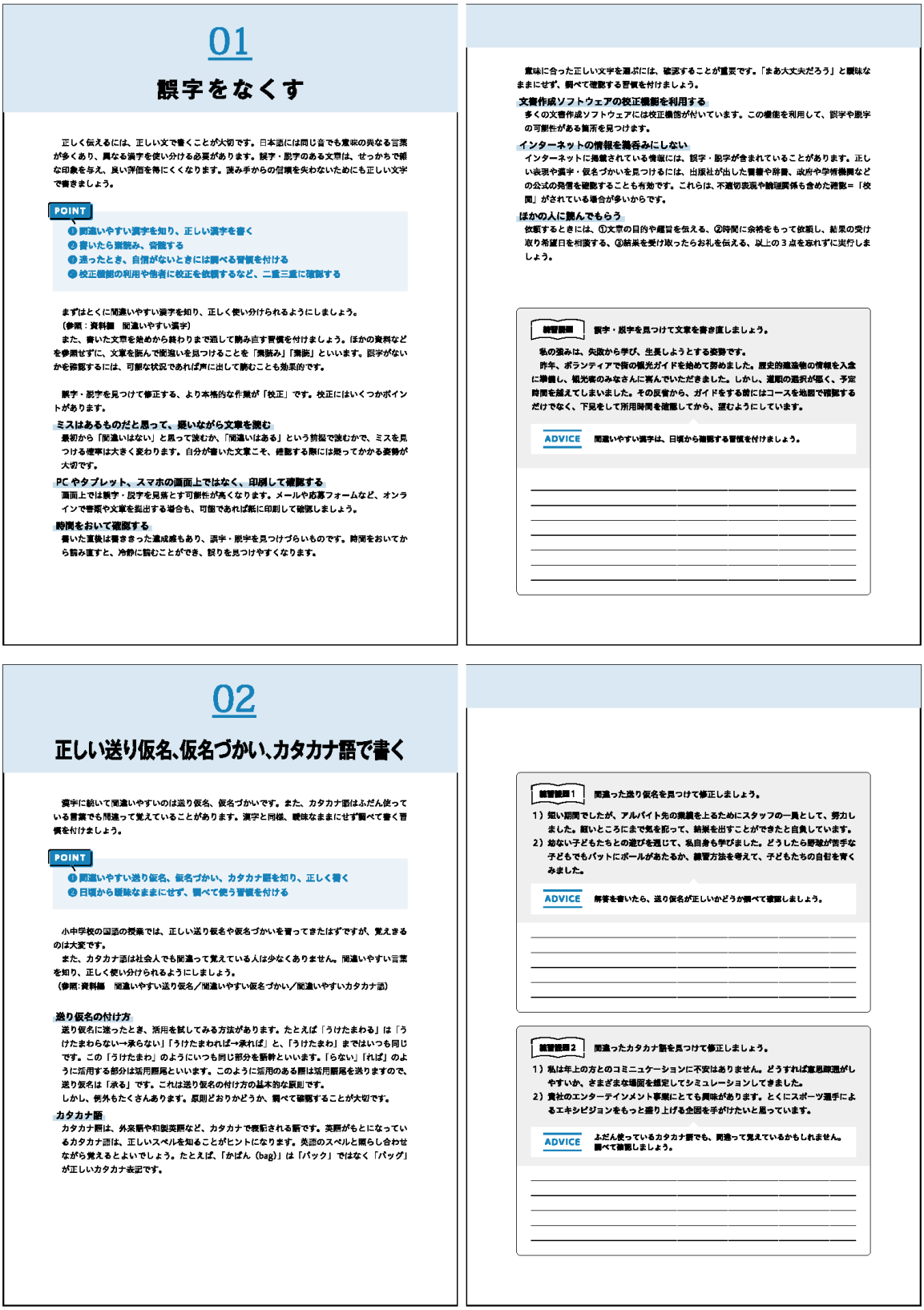
<table>
<tr><th colspan="3">授業の位置づけ</th></tr>
<tr><td colspan="3">本授業は、第５回で書いた作文を素材としながら、公務員試験の作文において求められる「正確に文章を書く力」を身につける文章作成の基本授業となる。本授業では、文章の内容や主張以前に、誤字・脱字、送り仮名、表記ゆれ、文体の混在といった初歩的なミスによって評価を下げてしまう状態から脱却することを目的とする。読解力育成で培った「文章を注意深く読む視点」を、今度は自分の文章を点検する視点として転用する段階に位置づける。その観点から、次の項目について学習する。
１．作文力育成の技術的出発点
２．読解力（正確に読む）→作文力（正確に書く）への接続</td></tr>
<tr><th colspan="3">到達目標</th></tr>
<tr><td colspan="3">１．誤字・脱字、送り仮名、表記ゆれに気づき、修正できる
２．「評価以前に読まれない作文の理由」を理解する</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業構成</th></tr>
<tr><td colspan="3">教材に沿って誤字・脱字導入→送り仮名→表記ゆれ→ら抜き言葉→まとめ</td></tr>
<tr><th colspan="3">使用教材</th></tr>
<tr><td colspan="3">作文力育成教材</td></tr>
<tr><th colspan="3">授業進行</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>□授業の目的の説明
読みたくなくなる作文のイメージを沸かせ、誤字・脱字、送り仮名の間違いなどで読みにくい作文をあえて読もうとするのか、という視点で学生に考えさせる。</td><td>□教員発話例
「今日は作文を読んでもらうためのマナーを学びます。マナーを理解し、徹底することで、無駄な失点を防ぐことができます。」</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>□01 誤字をなくす</td><td>□教員発話例
「最近ではネットニュースでも誤字があるまま配信されている例を</td></tr>
</table>

	制限時間内に作文するのではなく、読み直して修正する時間まで含めて制限時間をとらえることを意識させる。 そのうえで、誤字・脱字のチェックを忘れないよう、意識を持たせる。 練習課題の誤字・脱字チェックを行い、答え合わせする。 □02 正しい送り仮名、仮名づかい、カタカナ語で書く 送り仮名の具体例を示す。 例：誤）明い→正）明るい カタカナ語の具体例を示す。 学生にしみゅれーしょんをカタカナ語として記載させる。 誤）シミレーション 正）シミュレーション 練習課題１、２に取り組ませ、解答する。 □03 表記をそろえる 表記のゆれについて教材で確認する。 表記のゆれが読みにくさを生むことを伝える。 練習課題に取り組ませ、解答する。 □「ら抜き言葉」に注意 ら抜き言葉が何かを教材で確認し、練習課題に取り組ませ、解答する。	見かけます。でも、漢字の誤りで意味が変わるケースも多々あります。みなさんも、スマホやパソコンの文字変換が便利であるため、誤字を意識しにくいかもしれませんが、採点者に読んでもらうという意識で誤字には注意を払いましょう」
まとめ	□本授業をふまえて、前回作成した作文の見直しを行い誤字・脱字、表記のゆれ、ら抜き言葉をチェックさせる。	□教員発話例 「では、今日の授業の振り返りとして前回作成した作文をチェックしてみよう。」

	□まとめとして、作文のチェックは、習慣化できることを伝え、チェックまで含めて制限時間内に作文を完成させられるように指導する。	

評価観点
1．誤字・脱字等の見直しの必要性を理解できたか 2．作文の見直しに取り組んでいるか
評価基準（授業単位での評価の参考）
1．授業の取り組み姿勢（質疑の発話、課題の取り組み） 2．誤りを自力で発見し、正しく修正できる

□使用教材（作文力確認教材）



01

誤字をなくす

正しく伝えるには、正しい文で書くことが大切です。日本語には同じ音でも意味の異なる言葉が多くあり、異なる漢字を使い分ける必要があります。誤字・脱字のある文章は、せっかちで雑な印象を与え、良い評価を得にくくなります。読み手からの信頼を失わないためにも正しい文字で書きましょう。

POINT

❶ 間違いやすい漢字を知り、正しい漢字を書く
❷ 書いたら読み、音読する
❸ 迷ったとき、自信がないときには調べる習慣を付ける
❹ 校正機能の利用や他者に校正を依頼するなど、二重三重に確認する

まずはとくに間違いやすい漢字を知り、正しく使い分けられるようにしましょう。
（参照：資料編　間違いやすい漢字）
また、書いた文章を始めから終わりまで通して声に出して読み直す習慣を付けましょう。ほかの資料などを参照せずに、文章を読んで誤字を見つけることを「黙読み」「黙読」といいます。誤字がないかを確認するには、可能な状況であれば声に出して読むことも効果的です。

誤字・脱字を見つけて修正する、より本格的な作業が「校正」です。校正にはいくつかポイントがあります。

ミスはあるものだと思って、疑いながら文章を読む
最初から「間違いはない」と思って読むか、「間違いはある」という前提で読むかで、ミスを見つける確率は大きく変わります。自分が書いた文章こそ、確認する際には疑ってかかる姿勢が大切です。

PC やタブレット、スマホの画面上ではなく、印刷して確認する
画面上では誤字・脱字を見落とす可能性が高くなります。メールや応募フォームなど、オンラインで書類や文章を提出する場合も、可能であれば紙に印刷して確認しましょう。

時間をおいて確認する
書いた直後は書きまった達成感もあり、誤字・脱字を見つけづらいものです。時間をおいてから読み直すと、冷静に読むことができ、誤りを見つけやすくなります。

意味に合った正しい文字を選ぶには、確認することが重要です。「まあ大丈夫だろう」と曖昧なままにせず、調べて確認する習慣を付けましょう。

文書作成ソフトウェアの校正機能を利用する
多くの文書作成ソフトウェアには校正機能が付いています。この機能を利用して、誤字や脱字の可能性がある箇所を見つけます。

インターネットの情報を鵜呑みにしない
インターネットに掲載されている情報には、誤字・脱字が含まれていることがあります。正しい表現や漢字・仮名づかいを見つけるには、出版社が出した書籍や辞書、政府や学術機関などの公式の発信を確認することも有効です。これらは、不適切表現や論理展開も含めた複数＝「校閲」がされている場合が多いからです。

ほかの人に読んでもらう
依頼するときには、①文章の目的や趣旨を伝える、②時間に余裕をもって依頼し、結果の受け取り希望日を相談する、③結果を受け取ったらお礼を伝える、以上の３点を忘れずに実行しましょう。

練習課題　誤字・脱字を見つけて文章を書き直しましょう。

私の強みは、失敗から学び、生長しようとする姿勢です。
昨年、ボランティアで街の観光ガイドを始めて務めました。歴史的建造物の情報を入念に準備し、観光客のみなさんに喜んでいただきました。しかし、道順の選択が悪く、予定時間を越えてしまいました。その反省から、ガイドをする前にはコースを地図で確認するだけでなく、下見をして所用時間を確認してから、望むようにしています。

ADVICE　間違いやすい漢字は、日頃から確認する習慣を付けましょう。

02

正しい送り仮名、仮名づかい、カタカナ語で書く

漢字に続いて間違いやすいのは送り仮名、仮名づかいです。また、カタカナ語はふだん使っている言葉でも間違って覚えていることがあります。漢字と同様、曖昧なままにせず調べて書く習慣を付けましょう。

POINT

❶ 間違いやすい送り仮名、仮名づかい、カタカナ語を知り、正しく書く
❷ 日頃から曖昧なままにせず、調べて使う習慣を付ける

小中学校の国語の授業では、正しい送り仮名や仮名づかいを習ってきたはずですが、覚えきるのは大変です。
また、カタカナ語は社会人でも間違って覚えている人は少なくありません。間違いやすい言葉を知り、正しく使い分けられるようにしましょう。
（参照：資料編　間違いやすい送り仮名／間違いやすい仮名づかい／間違いやすいカタカナ語）

送り仮名の付け方
送り仮名に迷ったとき、活用を試してみる方法があります。たとえば「うけたまわる」は「うけたまわらない→承らない」「うけたまわれば→承れば」と、「うけたまわ」まではいつも同じです。この「うけたまわ」のようにいつも同じ部分を語幹といいます。「らない」「れば」のように活用する部分は活用語尾といいます。このように活用のある語は活用語尾を送りますので、送り仮名は「承る」です。これは送り仮名の付け方の基本的な原則です。
しかし、例外もたくさんあります。原則どおりかどうか、調べて確認することが大切です。

カタカナ語
カタカナ語は、外来語や和製英語など、カタカナで表記される語です。英語がもとになっているカタカナ語は、正しいスペルを知ることがヒントになります。英語のスペルと照らし合わせながら覚えるとよいでしょう。たとえば、「かばん（bag）」は「バック」ではなく「バッグ」が正しいカタカナ表記です。

練習課題１　間違った送り仮名を見つけて修正しましょう。

1）短い期間でしたが、アルバイト先の業績を上るためにスタッフの一員として、努力しました。細いところにまで気を配って、結果を出すことができたと自負しています。
2）幼ない子どもたちとの遊びを通じて、私自身も学びました。どうしたら野球が苦手な子どもでもバットにボールがあたるか、練習方法を考えて、子どもたちの自信を育くみました。

ADVICE　解答を書いたら、送り仮名が正しいかどうか調べて確認しましょう。

練習課題２　間違ったカタカナ語を見つけて修正しましょう。

1）私は年上の方とのコミニュケーションに不安はありません。どうすれば意思疎通がしやすいか、さまざまな場面を想定してシミュレーションしてきました。
2）貴社のエンターテインメント事業にとても興味があります。とくにスポーツ選手によるエキシビジョンをもっと盛り上げる企画を手がけたいと思っています。

ADVICE　ふだん使っているカタカナ語でも、間違って覚えているかもしれません。調べて確認しましょう。

03

表記をそろえる

「表記」とは言葉を文字で表すことです。ある言葉を文章中に複数回書くときは、すべて同じ文字を使って表記をそろえます。表記がそろっていないことを「表記ゆれがある」といい、修正が必要です。ゆれがある文章は、「読み直しをしていないのではないか」「文章に対する注意力が不足しているのではないか」と読み手に思われてしまう可能性があるからです。

POINT

❶ 一つの文章中で同じ言葉を複数回使うときは表記をそろえる
❷ 表記ゆれが起きやすい例を知り、ゆれがないか必ず読み直す

表記ゆれが起きやすい例

表記ゆれの種類	表記ゆれがある例文
漢字と平仮名	最も得意な科目は社会だ。英語はもっとも苦手な科目で、課題をこなすのにとても時間がかかる。
漢字とカタカナ	桁が多くなると暗算ができない。3ケタ以上の数字を計算するときは、いつも電卓を使っている。
漢字の使い分け	一人暮らしの高齢者が増えている。コミュニティ全体として問題意識をもち、独り暮らし世帯を孤立させない施策が必要だ。
送り仮名	明日が講演会の申し込み期限だと気づいた。忘れないうちに、すぐに申込みをしよう。
数字	また遅刻してしまった。今月はもう２回めの遅刻だ。三回めは絶対にしないように気を引き締めたい。
時間	集合時刻は午後２時だから、自宅を13:00に出発すればじゅうぶん間に合うはずだ。
カタカナ語	来週は友人の誕生パーティがある。今回のパーティー会場は初めて行くところなので、地図で場所を確かめておこう。
英単語の大文字と小文字	Webサイトの分かりやすさは大事だ。どこに情報があるか見つけにくいWEBサイトは困る。
日付の全角と半角	美術展に行こうと思ったが１０月１８日のチケットは完売だった。10月25日に予定を変更しよう。
記号・単位	A製品の世帯あたり保有率は差が大きい。もっとも高いB県は170%を超えているが、50パーセントを割っているところもある。

表記ゆれをなくす方法

(1)必ず読み直す

文章を書き終えたら、表記ゆれが起きやすい箇所に注意しながら必ず読み直しましょう。ゆれが起きやすい言葉があればメモをしておき、同じ言葉が出てきたらメモの表記にそろえます。

(2)表記ゆれチェック機能を活用する

文書作成のソフトウェアには表記ゆれをチェックする機能があります。この機能を活用すると表記ゆれのある言葉が分かります。表記ルールを決めて修正し、表記をそろえます。

練習問題 表記ゆれがある言葉をそろえましょう。

1）身体の不調の改善には、十分な睡眠とバランスのいい食事が大切だ。睡眠には体を回復させる効果がある。
2）決勝トーナメントの組み合わせが決まった。この組合せだと、決勝まで優勝候補との対戦はない。
3）営業職に誘いたら、初年度は1,000万円、２年目は20,000,000円、３年目は三千万円を稼ぐような仕事がしたい。
4）日帰り旅行のプランを立てた。一か所目はA神社、二箇所目のB公園近くのレストランで昼食をとって、最後の三カ所目はC寺に行こうと思う。
5）Aさんが最新仕様のPCを購入した。私はいま使っているパソコンに不満はないので、もう少し使い続けるつもりだ。

ADVICE 表記ルールを決めて、そのルールにしたがってそろえます。

04

「ら抜き言葉」に注意

助動詞「れる」「られる」は可能、受け身、自発、尊敬の意味を表します。話し言葉では可能の意味で「られる」を使うべき場合に「ら」を抜いて「れる」を使う人が増えていますが、ふだんは許容される表現でも、就職活動で書く文章では正しく書くことが大切です。本番で正しく書くためには、ふだんから「ら抜き言葉」を使わないように意識しなければなりません。たとえば「見る」「食べる」は「見られる」「食べられる」が正しい表現です。「ら」を抜いた「見れる」「食べれる」は誤りです。

POINT

❶「ら抜き言葉」とは何かを知る
❷「ら抜き言葉」を使ってしまいがちな動詞を知り、正しい言葉を使う

「ら抜き言葉」が使われるようになった背景

「れる」「られる」は、可能、受け身、自発、尊敬を示すときに使われます。どの意味か、その言葉を聞いただけでは判断できません。

「られる」を使うのは、イの音で語尾が変化する上一段活用の動詞、エの音で語尾が変化する下一段活用の動詞、カ行変格活用（「来る」）の動詞のみで、四つの意味の判別が難しい動詞です。「れる」を使う五段活用の動詞には可能動詞があるため、「れる」は受け身、自発、尊敬のみで、意味を判別しやすい動詞です（例「会う」の可能動詞「会える」）。

上一段活用、下一段活用、カ行変格活用の動詞では、「られる」で可能の意味を判別しやすくするため、「ら」を抜くという変化が起きていると考えられています。

話し言葉では「ら抜き言葉」も使われるようになりましたが、新聞など、より正確な表現が求められる文章ではまだ使われていません。ふだんから話し言葉で「ら抜き言葉」を使っていると、書き言葉でも誤って使ってしまいがちです。「ら抜き言葉」を使わず、正しく話しましょう。

上一段活用と下一段活用の動詞の例

活用	動詞の例
上一段活用	浴びる　居る　起きる　降りる　着る　閉じる　見る
下一段活用	当てる　入れる　受ける　得る　決める　食べる　寝る

使ってしまいがちな「ら抜き言葉」の例

言葉	ら抜き言葉	正しい言葉
食べる	×食べれる	○食べられる
来る	×来れる	○来られる
見る	×見れる	○見られる
起きる	×起きれる	○起きられる
決める	×決めれる	○決められる

意味の見分け方

可能、受け身、自発、尊敬のうちどの意味か迷うことがあるかもしれません。次のように判断するとよいでしょう。

・「～できる」「～ことができる」と言い直しても意味が同じかどうか（可能）
・「誰に」「誰から」を受けているか（受け身）
・「自然と」を補うことができるか（自発）
・主語が話し手よりも目上の存在であるか（尊敬）

(1)可能

私は今日、予定どおり朝５時に起きられた。

「起きることができた」と言い直しても意味が同じなので、可能の意味だと考えられます。

(2)尊敬

歓迎する人々の前で、国王陛下が車から降りられた。

国王陛下の行動なので、尊敬の意味だと考えられます。

練習問題 「ら抜き言葉」を正しく書き直しましょう。

1）延期されていた資格試験をようやく受けれて、まずは安堵した。
2）入学式に買ったスーツをギリギリ着れたが、やはり今の私にはサイズが小さかった。

ADVICE 動詞の語尾に注意しながら、「れる」「られる」のどちらが入るか確認しましょう。

⑦授業７：文体の統一、接続詞の適切な使用、簡潔な文章表現

授業の位置づけ		
本授業は、作文の内容や主張には踏み込まず、文章を「読みやすい形」に整えることに特化した単元である。本授業では、文体の混在、接続詞の誤用、一文が長すぎることによる読みにくさといった、公務員試験の作文で評価を下げやすい表現上の課題を扱う。読解力育成で学んだ「文章の流れを意識して読む力」を、書く側の視点で活用し、読み手に負担をかけない文章を作るための基礎を固める段階として位置づける。その観点から、次の項目について学習する。 １．内容を変えず、読みやすさだけを改善する ２．表現レベルの調整に集中する		
到達目標		
１．表現レベルの調整に集中する ２．接続詞を文と文の関係に応じて使い分けられる		
授業構成		
導入→読みにくい文章の共通項→接続詞→文を短く書く→まとめ		
使用教材		
作文力育成教材		
授業進行		
導入	□授業の目的の説明 文章の読みにくさが、採点者の印象を悪くすることがあることを伝え、読みやすい作文が内容の採点に円滑につながることになると理解させる。	□教員発話例 「今日は作文の中身は一切直しません。読みづらい原因を取り除く授業です。」
展開	□05 文体をそろえる 文体とは具体的に何を言っていることなのかを理解し、文体をそろえることでの読みやすさを体感させる。 例外を示し、使い分けについて理解させる。	□教員発話例 「どのような印象を持たせる文にしたいか、どのような目的の文章か、という観点で文末の言い方を変えます。これを文体といい、～だ、である、と、～です、～ます

	練習課題に取り組ませ、解答する。 □06 接続詞を正しく使う 接続詞の働きと役割を確認した後、学生に教材にある接続詞を使い例文を作成させ、発表させる。 練習問題１、２に取り組ませ、解答する。 □07 文を短く書く 文を簡潔に書くことは、読み手の読みやすさ＝意味をとらえやすくなることを伝え、短い文章が幼稚というわけではないと感じてもらう。 教材にある３つのポイントに沿って説明し、文が短くなっても内容が減っていないことを伝える。 練習課題に取り組ませ、解答する。 □作文演習の見直し 第５回で作成した作文の文体、接続詞をチェックし、文が長くなっている箇所を修正する。	を一つの文章に混ぜないようにします。ただし、これには例外もあります。どのようなところで使い、例外は何かを確認しましょう。」 □教員発話例（接続詞） 「接続詞は、読み手にどう読めばいいかを教える合図です。」 □教員発話例 「では、今日の授業の振り返りとして前回作成した作文をチェックしてみよう。」
まとめ	□今回の授業が文章の「見た目」と「流れ」であることを確認する。	
評価観点		
１．文体をそろえること、その例外があることを理解したか ２．接続詞の役割と意味、使い分けを理解したか		
評価基準（授業単位での評価の参考）		
１．授業の取り組み姿勢（質疑の発話、課題の取り組み） ２．一文を適切な長さで修正できる		

□指導のポイントと対応

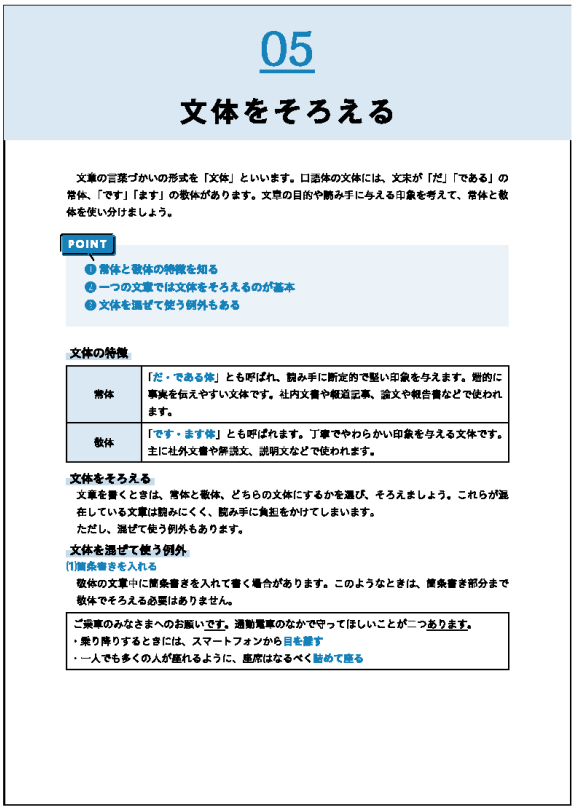
・多くの公務員試験においては、業務文書との親和性や読みやすさの観点から、常体で統一された作文が評価されやすい傾向にある、という考え方を伝える。

・接続の指導上のポイントとしては、前後の文の関係と接続詞の種類を必ず対応させること。学生は意味を考えずに「しかし」「そのため」「また」を感覚的に使う傾向がある。そのため、接続詞は原因 → 結果、対立、追加・並列など役割が決まっている。理解不足の学生には、文と文の関係を言葉で説明できてから接続詞を選ばせることが必要。

・文を短く書く練習をする場合、どこで切るか、どこを短くするかと、意味が変わっていないことを確認する。

・学生に作文見直しをさせる際は、直した場所がわかるように赤ペンなどで修正させる用に指導する。その際には、この訂正、見直しは、自分の作文力を高めるためのものであることを伝える。

□使用教材（作文力育成教材）



05

文体をそろえる

文章の言葉づかいの形式を「文体」といいます。口語体の文体には、文末が「だ」「である」の常体、「です」「ます」の敬体があります。文章の目的や読み手に与える印象を考えて、常体と敬体を使い分けましょう。

POINT

❶ 常体と敬体の特徴を知る
❷ 一つの文章では文体をそろえるのが基本
❸ 文体を混ぜて使う例外もある

文体の特徴

常体	「だ・である体」とも呼ばれ、読み手に断定的で堅い印象を与えます。端的に事実を伝えやすい文体です。社内文書や報道記事、論文や報告書などで使われます。
敬体	「です・ます体」とも呼ばれます。丁寧でやわらかい印象を与える文体です。主に社外文書や解説文、説明文などで使われます。

文体をそろえる

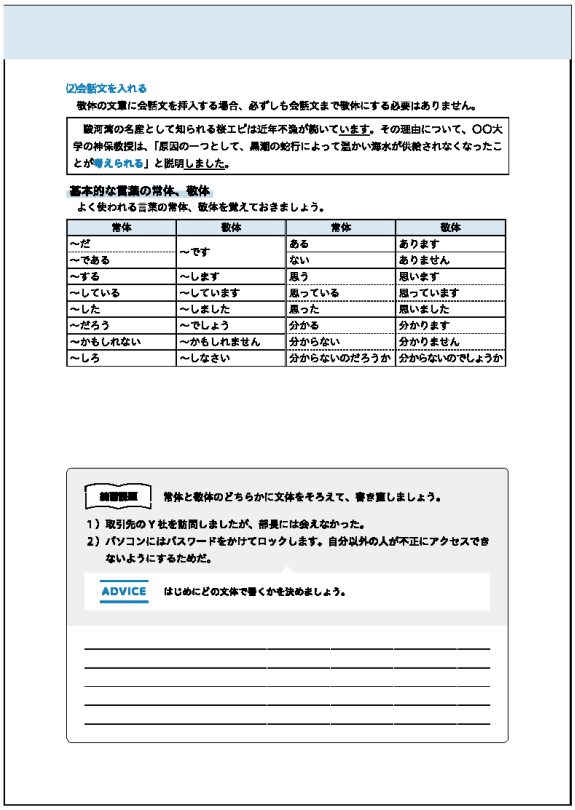
文章を書くときは、常体と敬体、どちらの文体にするかを選び、そろえましょう。これらが混在している文章は読みにくく、読み手に負担をかけてしまいます。
ただし、混ぜて使う例外もあります。

文体を混ぜて使う例外

(1)箇条書きを入れる

敬体の文章中に箇条書きを入れて書く場合があります。このようなときは、箇条書き部分まで敬体でそろえる必要はありません。

ご乗車のみなさまへのお願いです。通勤電車のなかで守ってほしいことが二つあります。
・乗り降りするときには、スマートフォンから目を離す
・一人でも多くの人が座れるように、座席はなるべく詰めて座る



(2)会話文を入れる

敬体の文章に会話文を挿入する場合、必ずしも会話文まで敬体にする必要はありません。

駿河湾の名産として知られる桜エビは近年不漁が続いています。その理由について、○○大学の神保教授は、「原因の一つとして、黒潮の蛇行によって温かい海水が供給されなくなったことが考えられる」と説明しました。

基本的な言葉の常体、敬体

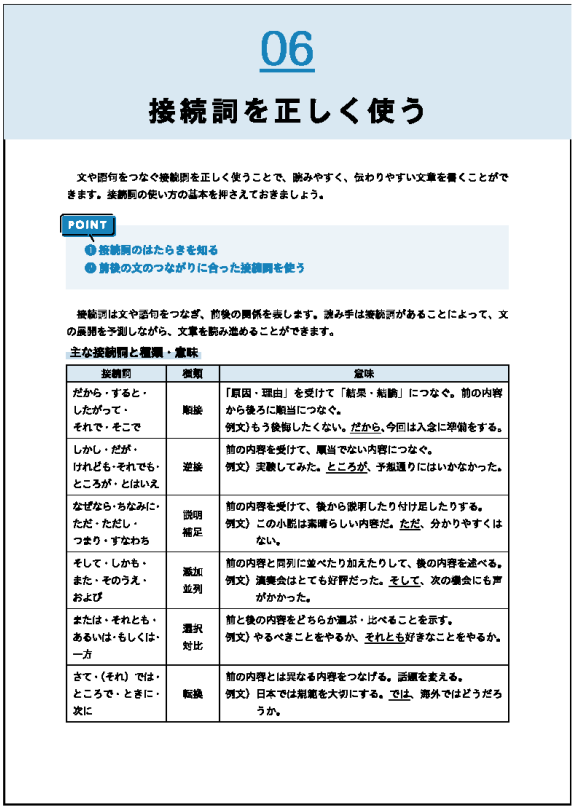
よく使われる言葉の常体、敬体を覚えておきましょう。

常体	敬体	常体	敬体
～だ	～です	ある	あります
～である		ない	ありません
～する	～します	思う	思います
～している	～しています	思っている	思っています
～した	～しました	思った	思いました
～だろう	～でしょう	分かる	分かります
～かもしれない	～かもしれません	分からない	分かりません
～しろ	～しなさい	分からないのだろうか	分からないのでしょうか

練習問題　常体と敬体のどちらかに文体をそろえて、書き直しましょう。

1）取引先のＹ社を訪問しましたが、部長には会えなかった。
2）パソコンにはパスワードをかけてロックします。自分以外の人が不正にアクセスできないようにするためだ。

ADVICE　はじめにどの文体で書くかを決めましょう。



06

接続詞を正しく使う

文や節句をつなぐ接続詞を正しく使うことで、読みやすく、伝わりやすい文章を書くことができます。接続詞の使い方の基本を押さえておきましょう。

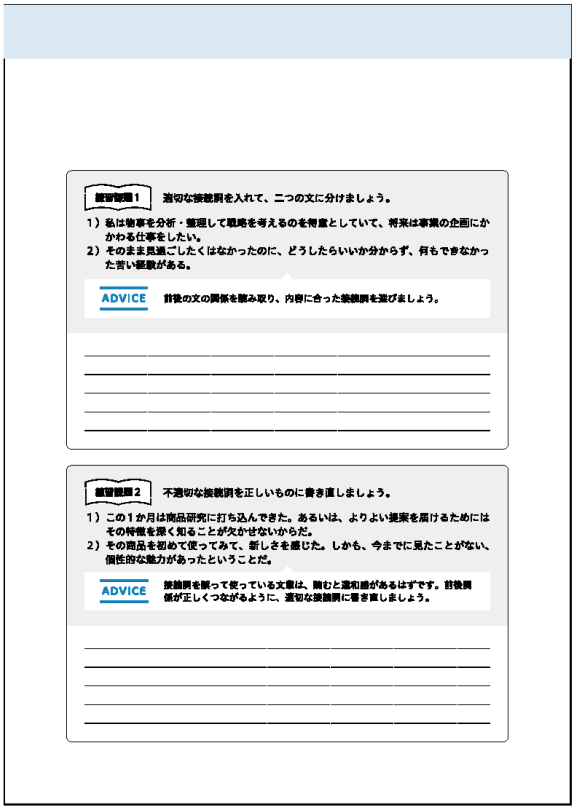
POINT

❶ 接続詞のはたらきを知る
❷ 前後の文のつながりに合った接続詞を使う

接続詞は文や語句をつなぎ、前後の関係を表します。読み手は接続詞があることによって、文の展開を予測しながら、文章を読み進めることができます。

主な接続詞と種類・意味

接続詞	種類	意味
だから・すると・したがって・それで・そこで	順接	「原因・理由」を受けて「結果・結論」につなぐ。前の内容から後ろに順当につなぐ。 例文）もう後悔したくない。だから、今回は入念に準備をする。
しかし・だが・けれども・それでも・ところが・とはいえ	逆接	前の内容を受けて、順当でない内容につなぐ。 例文）実験してみた。ところが、予想通りにはいかなかった。
なぜなら・ちなみに・ただ・ただし・つまり・すなわち	説明補足	前の内容を受けて、後から説明したり付け足したりする。 例文）この小説は素晴らしい内容だ。ただ、分かりやすくはない。
そして・しかも・また・そのうえ・および	添加並列	前の内容と同列に並べたり加えたりして、後の内容を述べる。 例文）演奏会はとても好評だった。そして、次の機会にも声がかかった。
または・それとも・あるいは・もしくは・一方	選択対比	前と後の内容をどちらか選ぶ・比べることを示す。 例文）やるべきことをやるか、それとも好きなことをやるか。
さて・(それ) では・ところで・ときに・次に	転換	前の内容とは異なる内容をつなげる。話題を変える。 例文）日本では組織を大切にする。では、海外ではどうだろうか。



練習問題1　適切な接続詞を入れて、二つの文に分けましょう。

1）私は物事を分析・整理して戦略を考えるのを得意としていて、将来は事業の企画にかかわる仕事をしたい。
2）そのまま見過ごしたくはなかったのに、どうしたらいいか分からず、何もできなかった苦い経験がある。

ADVICE　前後の文の関係を読み取り、内容に合った接続詞を選びましょう。

練習問題2　不適切な接続詞を正しいものに書き直しましょう。

1）この１か月は商品研究に打ち込んできた。あるいは、よりよい提案を届けるためにはその特徴を深く知ることが欠かせないからだ。
2）その商品を初めて使ってみて、新しさを感じた。しかも、今までに見たことがない、個性的な魅力があったということだ。

ADVICE　接続詞を誤って使っている文章は、読むと違和感があるはずです。前後関係が正しくつながるように、適切な接続詞に書き直しましょう。

07

文を短く書く

伝わる文章の基本は簡潔に書くことです。簡潔な文を書くと読み手が意味をとらえやすくなります。文を短く書くことを意識しましょう。文章を書いたら必ず読み返して、まずは無駄な言葉があれば削ります。それでも文が長くて分かりにくいときは、二文に分けて接続詞でつなぐ、別の言葉に書き換えるなど、文を短くする工夫をします。

POINT

❶ 無駄な言葉を削る
❷ 接続詞を使って文を短く切る
❸ 同じ意味の短い言葉に書き換える

文を短くするための三つのポイント

(1)無駄な言葉を削る

来月のシフトの件についてのご連絡をさせていただきます。来月の３週目は学校のテスト期間があるため、その週はアルバイトに来る時間がとれないのでシフトを入れることができません。

↓上の文章は、無駄な言葉が多く冗長になっています。削っても問題ない言葉を削って短くしましょう。

言葉を削った例

来月のシフトの件でご連絡いたします。来月の３週目は学校のテスト期間のため、シフトを入れることができません。

(2)接続詞を使って文を分ける

私は学校に行く前にカフェでコーヒーを飲みながら勉強する時間が好きだが、今日は課題の提出期限が迫っていたため、カフェに行くのは諦めて図書館で課題に取り組んだ。

↓上の文は、二つの接続助詞「だが」「ため」が入り、長くなっています。文を二つに分け、接続詞でつないで読みやすい文にしましょう。

文を分けた例

私は学校に行く前にカフェでコーヒーを飲みながら勉強する時間が好きだ。しかし、今日は課題の提出期限が迫っていたため、カフェに行くのは諦めて図書館で課題に取り組んだ。

(3)同じ意味を表す別の短い言葉に書き換える

中村さんは、いつも笑顔を絶やさず、相手のことを思いやって細かなところにまで気を利かせることができる人です。社内の雰囲気を明るくしてくれるこれから先の活躍が期待できる新人です。

↓上の文章は中村さんの人柄についての説明です。別の短い言葉に書き換えてみましょう。

短い言葉に書き換えた例

中村さんは、いつも笑顔を絶やさず、細かなところにまで相手に気配りができる人です。社内の雰囲気を明るくしてくれる期待の新人です。

１文の文字数は 40 ～ 60 字程度が目安です。自分で書いた文章を読み返して、１文が長くて意味が伝わりにくいと感じたら、三つのポイントに留意して短く書き直しましょう。

練習課題 文を短くしましょう。

１）私は高校生のとき、水泳部に所属しており、仲間と一緒にリレーのメンバーとして全国大会に出場し、リレーで５位に入賞するという成績をあげることができた。
２）もともと週末は家族みんなで軽井沢に旅行に行くという予定があったが、弟が熱を出したので行くことができなかった。
３）数人ずつのグループに分かれて議論する学校の授業で、野口さんと小野さんと気温の上昇が地球環境に与える影響や課題について話し合った。

ADVICE 削れる言葉はないか、別の短い言葉で書き換えられないか、考えてみましょう。

⑧授業８：主語と述語、修飾語、矛盾した内容

授業の位置づけ		
本授業は、文章の読みやすさを整えたうえで、内容が正しく伝わっているかを確認する単元である。本授業では、主語と述語の対応、修飾語のかかり先、文章全体での矛盾といった、作文の意味理解に直結する構造的な問題を扱う。表現上は整っていても、意味が曖昧・不正確な作文になってしまう状態を防ぎ、公務員試験で評価される文章の土台作りの段階として位置づける。		
到達目標		
１．主語と述語が対応しているか確認できる ２．修飾語がどの言葉にかかっているか説明できる ３．内容の矛盾に気づき、修正できる		
授業構成		
導入→主語と述語→修飾語→矛盾の確認→まとめ		
使用教材		
作文力育成教材		
授業進行		
導入	□授業の目的の説明 前回の授業は文章の読みやすさであり、今回は文章の正しさを理解する。読みやすく、正しい文章を作成できる基礎力の育成を目指すことを伝える。	□教員発話例 「今日は、きれいな文章かどうかではなく、正しい文章になっているかを確認します。」
展開	□08 主語と述語を対応させる 公務員試験の作文では、一文が長くなりやすく、その結果、主語と述語の対応が崩れるケースが多く見られる。これは添削指導や試験講評においても頻繁に指摘される代表的な減点要因であ	□教員発話例 「一生懸命書こうとする人ほど、一文で全部言おうとしてしまいます。その結果、主語と述語がずれてしまい、何が言いたいのか分からない作文になることがありま

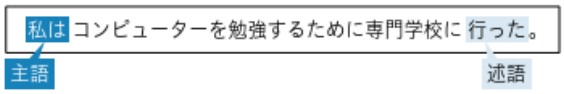
	り、内容以前に評価を下げる要因となることを伝える。 練習課題に取り組ませ、解答する。 □09 修飾語の位置に注意 修飾語と被修飾語の位置を確認させるため、教材にある修飾語を囲ませ、被修飾に→でつながせる。 練習問題に取り組ませ、解答する。 □10 矛盾した内容にならないように注意する 矛盾した文章が生じる背景には、伝えたい内容の整理が不十分なまま作文を始めてしまうことがある。書く前に主張や理由の関係を整理せずに文章化すると、途中で論点がぶれたり、前後で内容が食い違ったりする結果となりやすい。公務員試験の作文では、何を書くかだけでなく、どのような順序と構成で伝えるかを事前に組み立てることが重要であることを伝える。 教材の例題を確認しながら、矛盾が生じるパターンを確認する。 練習課題に取り組ませ、解答する。 □作文演習の見直し 第５回で作成した作文を６回～８回までの授業をふまえて書き直してもらう。	す。主語と述語が対応した文章を作るようにしましょう」 □教員発話例（修飾語） 「飾り言葉と飾られる言葉をそれぞれ、修飾語、被修飾語といいます。例えば、教材の中段にある例を見てください。赤い花が咲いた。どんな花が咲いたかを説明している言葉が赤です。この場合、赤いが、修飾になります。」 □教員発話例（矛盾） 「矛盾した作文になってしまう原因は、考えが浅いからではなく、考えを並べずに書き始めたことで起きます。公務員作文では、書く前にどういう順番で伝えるかを決めることが大切です。」 □教員発話例 「では、第５回で作成した作文を今までの修正箇所を反映しながら書き直してみましょう。」

まとめ	□今回の授業が文章の「見た目」と「流れ」であることを確認する。	

評価観点
1．主語・述語の対応や修飾関係を理解したか 2．論理的一貫性のある作文に修正できているか
評価基準（授業単位での評価の参考）
1．授業の取り組み姿勢（質疑の発話、課題の取り組み） 2．修正した作文の提出

□指導のポイントと対応

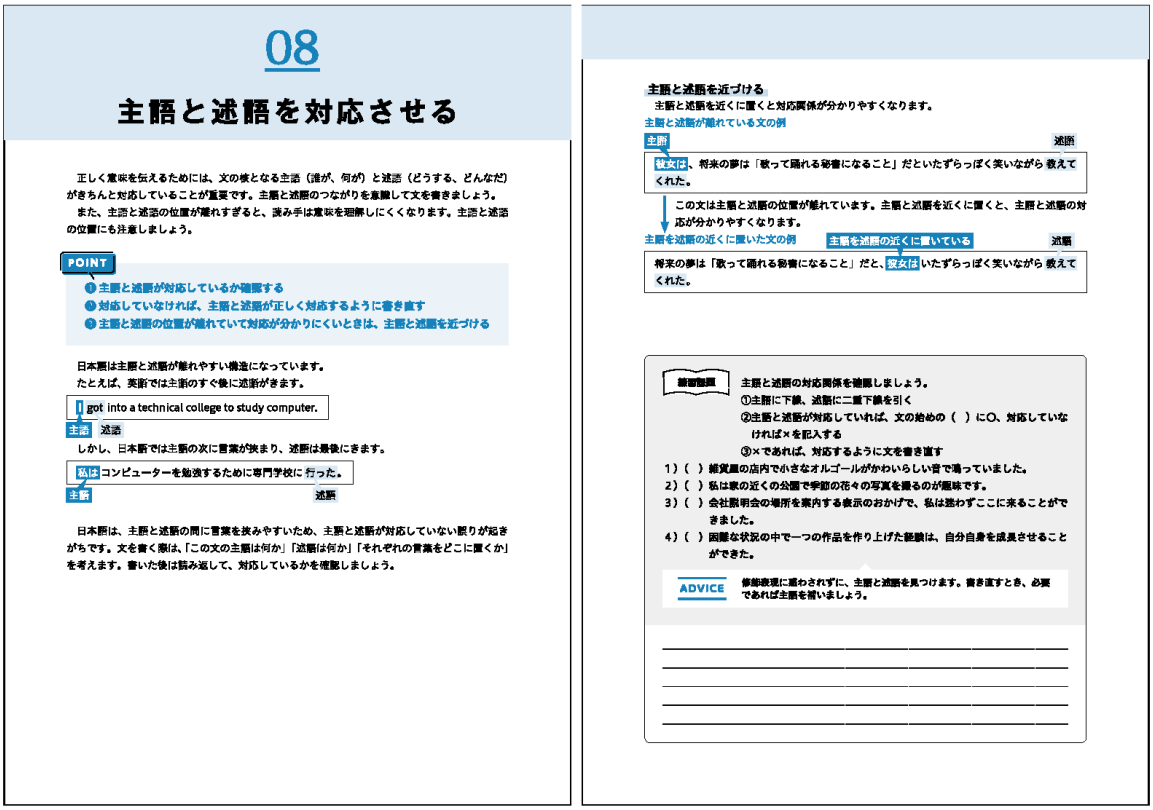
・主語と述語は、文法用語を使わず「誰が」「どうした」で確認する。



「私が」（だれが）、「行った」（どうした）

・矛盾を防止するために、一文一義を意識すること、感情的・主観的な表現を一文に詰め込みすぎないことを意識させます。そのため、自分の想いを強く伝えようとすると、一文が長くなり、文の構造が崩れやすいことに注意するように指導する。

□使用教材（作文力育成教材）



08

主語と述語を対応させる

正しく意味を伝えるためには、文の核となる主語（誰が、何が）と述語（どうする、どんなだ）がきちんと対応していることが重要です。主語と述語のつながりを意識して文を書きましょう。
また、主語と述語の位置が離れすぎると、読み手は意味を理解しにくくなります。主語と述語の位置にも注意しましょう。

POINT
❶ 主語と述語が対応しているか確認する
❷ 対応していなければ、主語と述語が正しく対応するように書き直す
❸ 主語と述語の位置が離れていて対応が分かりにくいときは、主語と述語を近づける

日本語は主語と述語が離れやすい構造になっています。
たとえば、英語では主語のすぐ後に述語がきます。

I got into a technical college to study computer.
主語 述語

しかし、日本語では主語の次に言葉が挟まり、述語は最後にきます。

私はコンピューターを勉強するために専門学校に行った。
主語 述語

日本語は、主語と述語の間に言葉を挟みやすいため、主語と述語が対応していない誤りが起きがちです。文を書く際は、「この文の主語は何か」「述語は何か」「それぞれの言葉をどこに置くか」を考えます。書いた後は読み返して、対応しているかを確認しましょう。

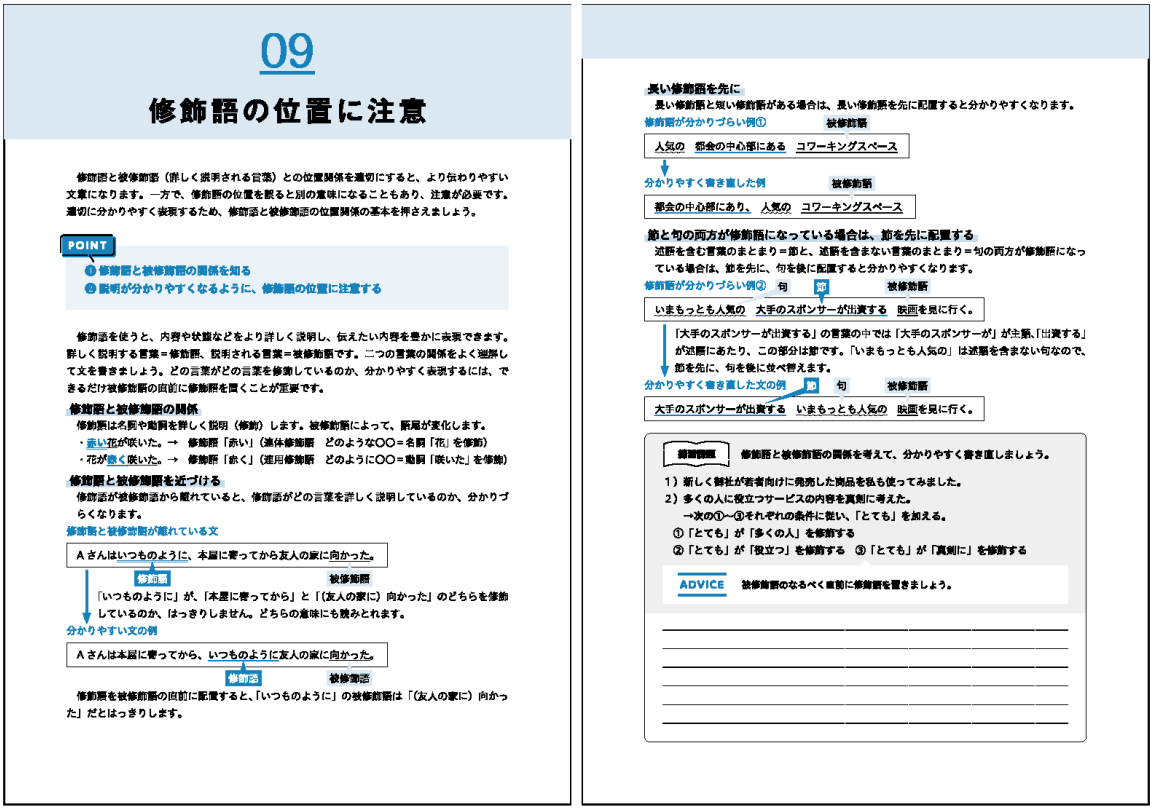
主語と述語を近づける
主語と述語を近くに置くと対応関係が分かりやすくなります。
主語と述語が離れている文の例
主語 述語
彼女は、将来の夢は「歌って踊れる秘書になること」だといたずらっぽく笑いながら教えてくれた。

この文は主語と述語の位置が離れています。主語と述語を近くに置くと、主語と述語の対応が分かりやすくなります。

主語を述語の近くに置いた文の例 主語を述語の近くに置いている 述語
将来の夢は「歌って踊れる秘書になること」だと、彼女はいたずらっぽく笑いながら教えてくれた。

練習問題 主語と述語の対応関係を確認しましょう。
①主語に下線、述語に二重下線を引く
②主語と述語が対応していれば、文の始めの（ ）に○、対応していなければ×を記入する
③×であれば、対応するように文を書き直す
1）（ ）雑貨屋の店内で小さなオルゴールがかわいらしい音で鳴っていました。
2）（ ）私は家の近くの公園で季節の花々の写真を撮るのが趣味です。
3）（ ）会社説明会の場所を案内する表示のおかげで、私は迷わずここに来ることができました。
4）（ ）困難な状況の中で一つの作品を作り上げた経験は、自分自身を成長させることができた。

ADVICE 修飾表現に惑わされずに、主語と述語を見つけます。書き直すとき、必要であれば主語を補いましょう。



09

修飾語の位置に注意

修飾語と被修飾語（詳しく説明される言葉）との位置関係を適切にすると、より伝わりやすい文章になります。一方で、修飾語の位置を誤ると別の意味になることもあり、注意が必要です。適切に分かりやすく表現するため、修飾語と被修飾語の位置関係の基本を押さえましょう。

POINT
❶ 修飾語と被修飾語の関係を知る
❷ 説明が分かりやすくなるように、修飾語の位置に注意する

修飾語を使うと、内容や状態などをより詳しく説明し、伝えたい内容を豊かに表現できます。詳しく説明する言葉＝修飾語、説明される言葉＝被修飾語です。二つの言葉の関係をよく理解して文を書きましょう。どの言葉がどの言葉を修飾しているのか、分かりやすく表現するには、できるだけ被修飾語の直前に修飾語を置くことが重要です。

修飾語と被修飾語の関係
修飾語は名詞や動詞を詳しく説明（修飾）します。被修飾語によって、語尾が変化します。
・赤い花が咲いた。→ 修飾語「赤い」（連体修飾語 どのような○○＝名詞「花」を修飾）
・花が赤く咲いた。→ 修飾語「赤く」（連用修飾語 どのように○○＝動詞「咲いた」を修飾）

修飾語と被修飾語を近づける
修飾語が被修飾語から離れていると、修飾語がどの言葉を詳しく説明しているのか、分かりづらくなります。
修飾語と被修飾語が離れている文
Aさんはいつものように、本屋に寄ってから友人の家に向かった。
修飾語 被修飾語
「いつものように」が、「本屋に寄ってから」と「（友人の家に）向かった」のどちらを修飾しているのか、はっきりしません。どちらの意味にも読みとれます。
分かりやすい文の例
Aさんは本屋に寄ってから、いつものように友人の家に向かった。
修飾語 被修飾語
修飾語を被修飾語の直前に配置すると、「いつものように」の被修飾語は「（友人の家に）向かった」だとはっきりします。

長い修飾語を先に
長い修飾語と短い修飾語がある場合は、長い修飾語を先に配置すると分かりやすくなります。
修飾語が分かりづらい例① 被修飾語
人気の 都会の中心部にある コワーキングスペース
分かりやすく書き直した例 被修飾語
都会の中心部にあり、人気の コワーキングスペース

節と句の両方が修飾語になっている場合は、節を先に配置する
述語を含む言葉のまとまり＝節と、述語を含まない言葉のまとまり＝句の両方が修飾語になっている場合は、節を先に、句を後に配置すると分かりやすくなります。
修飾語が分かりづらい例② 句 節 被修飾語
いまもっとも人気の 大手のスポンサーが出資する 映画を見に行く。
「大手のスポンサーが出資する」の言葉の中では「大手のスポンサーが」が主語、「出資する」が述語にあたり、この部分は節です。「いまもっとも人気の」は述語を含まない句なので、節を先に、句を後に並べ替えます。
分かりやすく書き直した文の例 節 句 被修飾語
大手のスポンサーが出資する いまもっとも人気の 映画を見に行く。

練習問題 修飾語と被修飾語の関係を考えて、分かりやすく書き直しましょう。
1）新しく弊社が若者向けに発売した商品を私も使ってみました。
2）多くの人に役立つサービスの内容を真剣に考えた。
→次の①～③それぞれの条件に従い、「とても」を加える。
①「とても」が「多くの人」を修飾する
②「とても」が「役立つ」を修飾する ③「とても」が「真剣に」を修飾する

ADVICE 被修飾語のなるべく直前に修飾語を置きましょう。

10

矛盾した内容にならないよう注意する

矛盾点がある文章は説得力に欠けます。整合性のとれた文章になるように、「矛盾した内容になっていないか」を意識して読み直しましょう。

POINT

❶ 書き終えたら、必ず全文を通して読み直す
❷ 矛盾点がないか、ポイントに沿って確認する

矛盾がないか確認するポイント

文章を書いたら、次のポイントを確認しながら読み直します。

①内容に筋が通っているか
②体験談や事例がテーマに合っているか
③意見とその理由が対応しているか

体験談や事例がテーマに合っているか

体験談や事例が伝えたいテーマに合っていないと、読んでもよく理解できない文章になってしまいます。

事例がテーマに合っていない例

私はチームで動くとき、リーダーシップを発揮することが得意です。高校で所属していた陸上部では実戦よりも基礎練習を重視し、毎日継続して行っていました。

↓

基礎練習を重視したという事例が、PR したいテーマ「リーダーシップの発揮」に合っていません。また、実例も不足しています。

私はチームで動くとき、リーダーシップを発揮することが得意です。高校で所属していた陸上部で部員の出場種目が議論になったとき、部員一人一人と面談し、練習記録を確認しながら出場種目の要望を聞きました。その面談結果をもとに部員全員で話し合う機会を設定し、各部員が強みを発揮できる種目を部員全員が納得したうえで決めました。

リーダーシップを発揮した事例を具体的に述べています。

意見とその理由が対応しているか

意見を述べるときは、その根拠となる理由が必要です。この二つが適切に対応していないと、説得力のない文章になってしまいます。意見とその理由が対応しているか確認しながら、書いた文章を読み直しましょう。

意見とその理由が対応していない例

困り事の解決策が分からないときには、相談相手を選ぶことが大切だ。たとえば仲の良い友達に相談したら、話してすっきりするかもしれないし、話もスムーズに進むだろう。同じ問題に直面したことがある人や、その分野に詳しい人を選んで相談してもいいだろう。

↓

相談相手を選ぶことがなぜ大切か、後に続く文が理由になっていません。意見と理由が対応していない、分かりづらい文章です。

困り事の解決策が分からないときには、相談相手を選ぶことが大切だ。たとえば仲の良い友達に相談したら、話してすっきりするかもしれない。しかし、困り事が解決するとは限らない。同じ問題に直面したことがある人や、その分野に詳しい人を選んで相談するべきだ。

相談相手を選ぶことがなぜ大切か、2文目以降で説明しています。

練習問題 文章の中から修正が必要な箇所を抜き出して、その箇所を書き直しましょう。

1）私の長所は忍耐力があるところだ。学生時代にレストランのアルバイトで、明るくおしゃべりが好きな人、感情的になりやすい人など、さまざまな性格の人と働いた。レストランではスタッフどうしの連携が大切なので、一人一人に合わせてコミュニケーションをとり話しやすい雰囲気づくりを心がけた。その結果、スタッフの人間関係とチームワークがよくなった。

2）仕事上でミスをしたら、言い訳をせずに誠意を尽くして謝るべきだ。誰だってミスをするものだ。どう言い訳をすれば自分の立場が優位になるか、対策を講じることで、もめることも少なく、次の仕事がやりやすくなる。

ADVICE 解答文1は具体例から PR ポイントを拘考しましょう。
解答文2は冒頭の意見と矛盾しないように、下線部の表現を修正しましょう。